CZ-431-072
1200901599269
14.7
843

農業水利關係例規類聚

昭和十四年三月

農林省農務局

C2
K31
072

凡例

本編ハ農業水利ニ關スル執務上ノ便ニ供スル爲關係例規ヲ蒐錄シ之ヲ謄寫シタルモノナリ

昭和十四年三月

農林省農務局

14.7
843

目次

第一　農業水利改良計畫 …… 1
農業水利改良計畫ニ関スル件 …… 2
農業水利改良計畫要項 …… 4
農業水利改良計畫處務心得 …… 27
農業水利改良計畫心得 …… 81
第二　用排水幹線改良事業 …… 83
用排水改良事業補助要項ニ関スル通牒 …… 91
用排水改良事業補助申請ニ関スル件 …… 92
用排水改良事業補助ニ付打合ニ関スル件 …… 93
用排水改良事業ニ関スル件（大正十五年） …… 93
用排水幹線改良事業ニ関スル件（昭和四年） …… 94
用排水改良事業費豫算繰越ニ関スル件（昭和十三年七月） …… 94
用排水幹線改良事業ニ関スル件（昭和十三年七月） …… 94

用排水幹線改良事業ニ関スル件（昭和十三年八月）……95
用排水幹線改良事業ニ関スル件（昭和七年）……95
用排水幹線改良事業ニ関スル件（昭和九年）……96
用排水幹線改良事業ニ関スル件（昭和二年）……103
用排水幹線改良事業ニ付地方起債ニ関スル件……104
用排水幹線改良事業費補助金ヲ受クル団体ノ計算證明ニ関スル件……104
用排水幹線改良事業工事着手竝完了届ニ関スル件……106
用排水幹線改良事業進捗方ニ関スル件……107
用排水幹線改良事業ノ施行ニ関スル件……109
河川改良工事ノ施行ニ関スル件……109
河川ニ関スル事務ト用排水幹線改良事業助成事務トノ権限整備ニ関スル件……110
公共團体ニ對スル工事補助費繰越使用ニ関スル法律……112
第三　暗渠排水、床締及客土事業
暗渠排水奨励ニ関スル件（昭和七年七月）……113
暗渠排水奨励ニ関スル件（昭和七年九月）……115
暗渠排水補助要項中改正ノ件（昭和十二年）……119
暗渠排水補助要項中改正ノ件（昭和十一年）……120
暗渠排水、床締及客土事業補助要項ニ関スル件……120
暗渠排水、床締及客土事業補助要項ニヨル道府縣營事業ノ事業費支出決算書及事業實施成績書ノ様式ニ関スル件……133
暗渠排水、床締及客土事業補助要項第一號ノ補助ヲ受ケ床締用機械類ヲ購入セル縣ニ對スル通牒……142
第四　農用公共施設改良事業
農用公共施設新設改良事業補助ニ関スル件……143
第五　河水統制調査
河水統制調査ニ関スル件……154
第六　其ノ他
農業水利ト農業水利以外ノ目的ヲ以テスル水ノ使用トノ調和ニ関スル件……158
農地ノ利用関係ニ関スル爭議ノ報告ニ関スル件……159
國庫ノ補助スル公共團体ノ事業ニ関スル件……162

第七　附錄

河川臺帳令（抄）……201
河川豫定地制限令（抄）……194
河川法準用令（抄）……184
河川堰堤規則……176
農地調整法……166
農地調整法施行令……166
鑛業法（抄）……164
鑛業法中改正法律案……163

第一　農業水利改良計畫

●農業水利改良計畫ニ關スル件

（大正九年九月二十日附農第二二四四號農務局長ヨリ地方長官宛通牒）

本邦既耕地中農業水利狀況ノ不良ナルモノ約九十萬町歩ノ多キヲ占メ年々水旱ノ被害頻ルノ次第ニ有之候旨ハ從來各府縣ニ於テ耕地整理等ノ奬勵ニ依リ之カ改良ニ努メ來リ其ノ成績觀ルヘキモノ有之ト雖モ尚大面積ナルモノ又ハ二府縣以上ニ跨ル等水利關係複雜廣汎ナルモノニアリテハ之カ改良計畫ヲ確定スルコト容易ナラサルモノアリ因テ當省ニ於テハ特ニ職員ヲ設置シ技師一人、技手六人ヲ以テ一班ヲ組織シ全國ニ亘リ三班ヲ配置シ實地ニ付調査ノ上事業ノ方法、損益等ニ關スル計畫ノ綱要ヲ立案シ以テ其ノ改良ヲ勸奬スルコトトナリ相成候ニ付右御了知ノ上計畫班等實管下ニ出張ノ際等ニハ相當便宜御取計相成度猶實地調査ヲ行フヘキ區域ハ關係官吏派遣ノ上査定スル筈ナルモ若シ調査希望ノ地區モ有之候ハヽ爲參考申出相成度依命此段及通牒候也

農業水利改良計畫要項

（大正九年八月二十八日決判）

一、本計畫ハ耕地ノ農業水利改良ヲ勸奬スル爲實地ニ付事業ノ方法、損益等ニ關スル計畫ノ綱要ヲ立案スルヲ以テ目的トス

二、本計畫ニ於テ調査ヲ爲スヘキ事項左ノ如シ

甲　現狀

一、位置

二、土質、地勢及地貌

三、面積

四、水利

五、經濟狀況

六、氣象

乙　計畫

一、一般計畫

二、水利計畫

三、費用概算

四、收益增加ノ豫想

五、收支計算

六、其他必要ト認ムル事項

三、本計畫ハ技師一人、技手六人ヲ以テ一班ヲ組織シ之ニ從事セシム但シ事宜ニ依リ人員ヲ增減スルコトアルヘシ

四、各班ノ主任ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

五、計畫完了シタルトキハ主任ハ計畫書ヲ作製シ農商務大臣ニ提出スルモノトス

六、前各項ノ外本計畫ヲ行フニ付必要ナル細目ノ事項ハ農務局長之ヲ定ム

農業水利改良計畫處務心得

（大正九年八月二十日決判）

第一章　總則

第一條　計畫ニ関スル作業ハ之ヲ外業及内業ニ分ツ

外業ハ出張ノ上實地ニ付キ計畫ニ從事スルモノトス

内業ハ外業ニ依リ得タル資料ヲ整理シ計畫書ノ作製ニ從事スルモノトス

第二條　主任ハ文書ノ接受ニ差支ナキ様受信所ヲ定メ局長ニ報告スヘシ

第三條　主任ハ出張中第一號様式ニ依ル勤務表、執務日誌及業務功程表ヲ作リ各員執務ノ狀況ヲ記載シ毎月之ヲ局長ニ報告スヘシ

第四條　出張中病氣ニ罹リ休務スル時ハ速ニ其旨届出ツヘシ若シ休務七日以上ニ及フトキハ療養期間ヲ記載シタル醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ、病氣ノ爲歸廳ヲ命セラレタルトキハ事情ニ依リ出張地ニ滯在療養ヲ願出ツルコトヲ得

第五條　父母ノ病氣危篤又ハ死亡其他已ムヲ得サル事由ノ爲出張地ヲ離レムトスルトキハ豫定日数及行先地ニ於ケル宿泊所ヲ明記シ願出ツヘシ

第六條　調査地ニ到着シタルトキハ關係市町村長ニ就キ土地ノ立入、障害ノ竹木土石等ノ移轉若ハ除却等ニ付協議スヘシ御料地、國有地又ハ公有地アルトキハ尚關係官公署ニ協議スヘシ

第七條　土地ニ立入測量又ハ檢査ヲ爲シ障害ノ竹木、土石等ヲ移轉若ハ除去スルニ付第二號様式ニ依ル通知又ハ公告ヲ爲スヘシ

但竹木土石等ノ移轉若ハ除却ニシテ損害ノ大ナルモノニ付テハ可成通知ノ方法ニ依ルヘシ

第八條　土地ノ立入、竹木土石等ノ移轉若ハ除却ハ關係者ノ爲ニ可成損害少キ方法ヲ選フヘシ

第二章　經費

第九條　各班ノ豫定經費ハ豫メ之ヲ示達ス

第十條　主任ハ出張中第三號様式ニ依リ毎月末日現在豫定經費ノ殘額調書ヲ作リ局長ニ提出スヘシ

第十一條　主任ハ出張中ニ於ケル所要ノ備品、消耗品其他修繕ヲ要スルモノヲ考査シ相當

期間ヲ存シ第四號樣式ニ依リ課長ニ申出ツヘシ出張中臨時必要ヲ生シタル場合亦同シ

第十二條　主任ハ第五號樣式ニ依リ經費差引簿、備品管守簿、材料受拂簿、郵便切手使用簿及人夫使役簿ヲ備フヘシ

第十三條　臨時資金前渡官吏ハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一、臨時資金前渡官吏ハ所要ノ金額ヲ局長ヲ經テ支出官ニ請求スヘシ

二、前渡ヲ受ケタル現金ニ付テハ前渡官吏一切ノ責任ヲ負フ

三、保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スヘカラス

四、自ラ現金ノ保管ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行又ハ資產信用アル者ニ其保管ヲ託スルコトヲ得

五、前號ノ場合ニ於テ預金ノ利子ヲ領受シタルトキハ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

六、臨時資金前渡官吏ハ大正十一年三月大藏省令第二十號會計規則及特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式、第十四號書式ニ依ル現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

七、臨時前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ之カ支拂ヲナシ第六號樣式ニヨル領收證書ヲ徵スヘシ

イ、請求ハ正當ナルカ

ロ、資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカ

ハ、契約書其他ノ書類アルトキハ其關係

ニ、代理人ニ交付スルモノナルトキハ委任關係

八、前號ノ支拂ヲ爲シタルトキハ領收證ノ副本ヲ作リ人夫使役簿其他關係書類ト一括保存スヘシ

九、誤拂、過拂ヲ發見シタルトキハ速ニ回收ノ手續ヲ爲スヘシ

此ノ場合ニ於テハ資金前渡官吏其事由ヲ詳記シタル調書ヲ作リ出納計算書ニ添付スヘシ

十、會計檢查院ノ檢查判決ヲ受クル爲大正十一年八月十四日會第一、一三八號旅費竝ニ資金前渡取扱手續第七條ノ規定ニヨリ出納計算書ヲ調製シ證憑書類及支拂精算書ヲ添ヘ支拂ヲ終了シタル日ヨリ七日以內ニ局長ヲ經由シテ之ヲ支出官ニ差出スヘシ

十一、出納計算書ニ添付スヘキ證憑書類ハ豫算科目別ニ區分編纂シ第七號樣式ニ依

ル表紙ヲ附スヘシ

十二、資金前途官吏ハ農林大臣ノ承認ヲ経ルニアラサレハ前渡ヲ受ケタル科目所属年度以外ノ支拂ヲナスコトヲ得ス

十三、臨時資金前渡官吏ハ前渡ヲ受ケタル金額ノ科目内ニ於テ節以下ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得、目ノ金額ニシテ過不足ヲ生シ経伺ノ遑ナキ時ニ限リ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ支拂精算書ニ其ノ金額及事由ヲ詳記スヘシ

十四、臨時資金前渡官吏ハ其ノ買入レタル物品ヲ所属物品會計官吏ニ引継クヘシ若シ引継クコト能ハサル場合ニ於テハ出納計算書提出ノ際第八號様式ニ假管守證ヲ添付スヘシ

第十四條　器具、機械其他ノ物品ハ叮重ニ取扱フヘシ若シ故意又ハ怠惰ニ依リ之ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任ス

第三章　人夫扶助

第十五條　人夫其他ノ傭人自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非ラスシテ業務上傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ主任ハ左ノ事項ヲ詳具シ遅滞ナク局長ニ報告スヘシ但

シ即死者ナルトキハ醫師ノ檢案書其他ノ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

一、傭人ノ年月日及就役日数

二、本籍地、居所、氏名、生年月日

三、事故発生ノ年月日、場所、業務ノ種類罹災ノ原因及應急措置ノ狀況竝ニ療養日数ノ見込

前項ノ場合ニ於テ傷痍若ハ疾病ノ爲死亡シタル者アルトキハ主任ハ其ノ原因ヲ確認スルニ足ルヘキ醫師ノ證明書ヲ添ヘ遅滞ナク局長ニ報告スヘシ

第十六條　前條ノ場合ニ於テ大正七年勅令第三百八十二號傭人扶助令ニ依リ扶助金ヲ給スヘキモノト認ムルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ取扱フヘシ

一、療治料ヲ給スヘキトキハ本人又ハ其遺族ヨリ請求書ヲ徴シ局長ニ提出スヘシ此ノ請求書ニハ医師其他ノ者ノ受領證又ハ請求書ヲ添附スヘシ

二、休業扶助料、障害扶助料、葬祭料又ハ遺族扶助料ヲ給スヘキトキハ意見ヲ具シ局長ニ上申スヘシ

三、前號ノ葬祭料又ハ遺族扶助料ニ関スル上申ニハ戸籍謄本ヲ添ヘ遺族ナキトキハ尚葬儀ヲ行ヒタル者ノ住所、氏名及死者トノ関係ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第一號様式

昭和　年　月　日

執務報告　第　班主任　官　氏名　印

一、勤務表

内務	外務	公用旅行	賜暇	病氣	忌引	遅参早退	何々	官職氏名	備考
日	日	日	日	日	日	日	日		

備考　一日中二二種以上ノ勤務ニ從事シタルトキハ勤務時間最モ多キモノニ依ル

二、執務日誌

日	天候	執務ノ概要	使用人夫	記事
一日	晴	何技師何技手ハ何地何々ニ從事	〇人	
二日	晴雨	何地何々調査ヲ行フ午後降雨ノ爲何時帰舍何々ニ從事	三	一、課長ヨリ何々ニ付電命アリ
三日	雨	何技師ハ午前中何々ノ件ニ付何村役場訪問午後何々ニ從事何技手ハ何々ニ從事	一、五	一、何地計畫調査終了ス
四日	晴	何郡何村役場訪問	〇	
五日				
六日				
七日				
八日				
九日				
十日				
十一日				
十二日				
十三日				

日	天候	執務ノ概要	使用人夫	記事
十四日				
十五日				
十六日				
十七日				
十八日				
十九日				
二十日				
二十一日				
二十二日				
二十三日				
二十四日				
二十五日				
二十六日				

三、業務功程表

二十七日	
二十八日	
二十九日	
三十日	
三十一日	
計	

本期間調査豫定地	面積	調査期間	調査中ニ属スル終了事項	終了豫定日	記事
何縣何郡何村大字何	町	年月日着手 年月日終了			
		年月日着手	何々ハ全部何々ハ八分ヲ終ヘ全部終了ノ約六分通終了	年月日全部終了ノ豫定	
本期間調査豫定地	面積	調査期間	調査中ニ属スル終了事項	終了豫定日	記事
計			全部ノ約七分通終了	豫定通終了ノ見込又ハ年月日終了ノ見込	

第二號樣式

公　告（通知書）

耕地整理ニ関スル調査ヲ爲ス爲昭和　年　月　日ヨリ向フ何日間官吏ヲシテ左記土地ニ立入測量又ハ檢査ヲ爲サシメ必要アル場合ニ於テハ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除去セシム

記

一、何縣何郡何村大字何内ノ土地
一、何縣何郡何村大字何字何内ノ土地
一、何縣何郡何村大字何字何何番地

右公告（通知）ス

年　月　日

備考一、本件公告ハ立入ルヘキ土地ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ少クモ三日間之ヲ揭示スヘシ（耕地整理法第七條、同法施行規則第四條參照）
二、通知書ニハ宛名（土地占有者、即チ自作者、小作人又ハ土地貸借人ノ如キモノ）ヲ記載スヘシ

農林省

第三號樣式

豫定經費殘額調書（何月末現在）

第　班主任　官氏名　㊞

科目	經費 豫定額	經費 支拂濟額	經費 殘額	今後所要見込額	過不足見込額	記事

備考

一、豫定額ハ其ノ增減アリタルトキハ現在額ヲ記載スヘシ
二、過不足見込額ニ對シテハ記事欄ニ其ノ事由ヲ詳記說明スヘシ
三、不足見込額ハ朱記スヘシ

第四號樣式

所要物品調書

品名	品質形狀	數量	用途	記事

右所要ニ付何月何日迄ニ交付方御取計相成度候也

年　月　日

耕地課長宛

第何班　主任　官氏名　㊞

備考　出張先ヨリ申出ノ場合ニハ送附ノ場所ヲ記載スヘシ

第五號樣式ノ一（經費差引簿）

産業奬勵費　農事改良奬勵費何々（目）

年月日	摘要	豫定額	支拂濟額	殘額
何年何月何日	豫定額示達			
同	測量人夫賃　何某渡			
何年何月何日	何々代　何某渡			

備考

一、本簿ハ各目毎ニ口座ヲ設ケ經費豫定額ノ增減及支拂殘額ヲ記入整理スルモノトス

二、豫定額ノ減額ハ豫定額ノ欄ニ朱記シ殘額ヨリ其額ヲ控除スヘシ

三、本簿ニハ月計及累計ヲ附スヘシ

第五號樣式ノ二（備品管守簿）

何々（品名）

稱呼何（個又ハ組）

年月日	受数	返納数	現管守数	備考

備考

一、種類及稱呼ノ異ナル毎ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ

二、備考欄ニハ参考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

三、年度末ニ於テ計ヲ附スヘシ

第五號樣式ノ三（材料受拂簿）

何々（品名）

稱呼何（組又ハ個）

年月日	摘要	受五〇	拂一〇	現在四〇
何月何日	何年何某ヨリ購入	五〇		五〇
同月何日	何地何調査ニ使用		一〇	四〇

備考

一、種類及稱呼ノ異ナル毎ニ口座ヲ設ケ記帳整理スヘシ

二、年度末ニ於テ計ヲ附スヘシ

第五號様式ノ四（郵便切手使用簿）

年月日	発送先	発信者	種類	数量	金額	記事
〃	〃	〃	第一種	二〇瓦	円 〇四	
〃	〃	〃	第一種書留	二〇瓦	一〇	
〃	〃	〃	端書	一枚	〇二	
〃	〃	〃	電信	一五字	三〇	五字毎ニ五銭増

備考

一、支拂證明書提出毎ニ計ヲ附スヘシ

二、書留郵便ノ類ニ付テハ其領收書ヲ保存シ置クヘシ

第五號様式ノ五

人夫使役簿

施業場所　何縣何郡何村大字何字何々

事業ノ種類　農業水利改良計畫第何班

使役者　官氏名㊞

何月人夫数

日	人夫賃金	人夫住所	人夫氏名
一日			
二日			
三日			
四日			
五日			
六日			
七日			
八日			
九日			
十日			
十一日			
十二日			
十三日			
十四日			
十五日			
十六日			
十七日			
十八日			
十九日			
二十日			
二十一日			
二十二日			
二十三日			
二十四日			
二十五日			
二十六日			
二十七日			
二十八日			
二十九日			
三十日			
三十一日			
計			

第六號樣式ノ一

領收證

一金　何程

但シ測量用人夫何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何日間分一日賃金何円何拾銭

右領收候也

年　月　日

臨時資金前渡官吏宛

何縣何郡何村大字何々何番地

何　某　㊞

第六號樣式ノ二

領收證

一金　何程

内譯

納付年月日	品名	数量	単価	金額	用途	備考
何年何月何日	標杭	一〇〇本	一〇〇	一〇、〇〇〇	測量用	栗材一二糎角長一四米
何年何月何日	修繕（トランシット）	一個	五、〇〇〇	五、〇〇〇		何々取替

物品代（物品修繕代金）

右領收候也

年　月　日

臨時資金前渡官吏宛

何縣何郡何村大字何々何番地

何　某　㊞

備考　金額拾圓以上ノモノハ相當印紙貼用ノ事

第六號様式ノ三

領收證

一金何程

運搬賃

内譯

年月日	運搬區間	品名	数量又ハ重量	單價	金額

右領收候也

何縣何郡何村大字何々何番地

年　月　日　　何　　某 印

臨時資金前渡官吏宛

備考　金額拾圓以上ノモノハ相當印紙ヲ貼用スルコト

第七號様式

昭和　年度　自何月何日　至何月何日

臨時部　産業奨励費　農事改良奨励費　何々（目）

支拂證憑書

一金何程　支拂高

此紙数表ヲ除キ何枚

臨時資金前渡官吏

官氏名 印

第八號樣式

年度 自 年 月 日
至 年 月 日

買入物品假管守證

品名	數量	單價	金額	所要事由	備考

右ノ通候也

年 月 日

官氏名 ㊞

備考

一、買入後直ニ消費シタルモノハ備考欄ニ其ノ數量及事由ヲ記載スルコト

農業水利改良計畫心得

農業水利改良計畫心得

（大正九年十一月十一日決判）

甲　調査

第一　土質及地質

(一)　土質ハ其ノ異ナル毎ニ適宜試鑽ヲ爲シ表土ニ付テハ性質、深淺及分布ヲ調査シ心土ニ付テハ其ノ性質ヲ調査スヘシ但シ必要アル場合ハ表土分布略圖ヲ添付スヘシ（土性圖ハ我國農學會規定樣式ニ依ルヘシ）

(二)　地質及地層ハ實地ニ付キ又ハ地質圖ヲ基礎トシ實地ト對照シ調査スヘシ

第二　地積

地區ノ地積ハ實測アルモノハ參謀本部陸地測量部地圖又ハ其ノ他ノ地圖ニ依リ實地ト對照シ地目別ニ之ヲ調査スヘシ

第三　水利

(一)　用語及單位

一、渴水位、渴水量トハ一年ヲ通シ約十日間以上之ヨリ下ラサル水位又ハ水量ヲ云フ

二、低水位、低水量トハ一年ヲ通シ約六十日間以上之ヨリ下ラサル水位又ハ水量ヲ云フ

三、平水位、平水量トハ一年ヲ通シ約百八十日間以上之ヨリ下ラサル水位又ハ水量ヲ云フ

四、平均渴水位、平均低水位、平均平水位、平均渴水量、平均低水量、平均平水量トハ前各號ノ水位又ハ水量ヲ數年ニ亘リ平均シタルモノヲ云フ例ヘハ何年間平均渴水量ト云フカ如シ

五、夏期ニ於ケル水位、水量ニ付テハ前各號ニ準ス例ヘハ夏期平均渴水量ト云フカ如シ

六、高水位、高水量トハ毎年必ス一二回發生スヘキ程度ノ出水位又ハ出水量ヲ云フ

七、洪水位、洪水量トハ數ケ年内ニ於テ發生スヘキ洪水ノ水位又ハ水量ニシテ何年何月何日ノ洪水位又ハ洪水量ト云フ

八、最大渴水位、最大洪水位、最大渴水量、最大洪水量トハ既往ノ事實又ハ口碑等ニ依リテ知リ得ル各相當ノ水位又ハ水量ヲ云フ

九、最多水位、最多水量トハ出現ノ度數最モ多キ水位又ハ水量ヲ云フ

十、單位

流域	平方粁	雨量	粍
流量	秒立方米	貯水量	立方米
落差	米	橫斷面	平方米
水深	米	水位	米
流速	秒米	水頭	米
橫斷線	米	潤邊	米
徑深	米	堰ノ寸法	米
水路ノ長	粁	測量線	粁
標高	米		

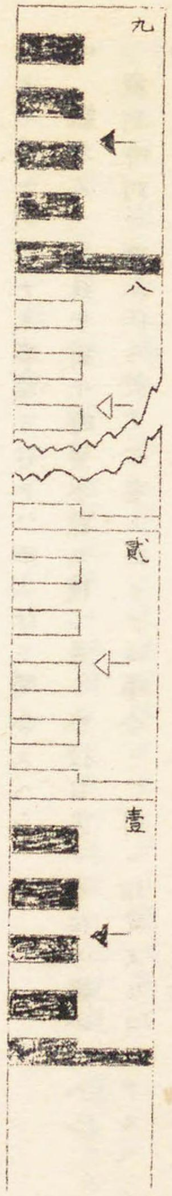
(二)

水位

一、河川、水路、溜池、地下水等ノ水位觀測ハ量水標ニ依リ毎日一回午前十時ニ水位ヲ觀測シ水位日表ニ記入スヘシ但シ洪水又ハ高水ニ際シテハ約一時間毎ニ水位ヲ檢シ記事欄ニ記入スヘシ

二、特ニ水位ノ變化ノ精査ヲ要スル場合ハ自記水位計ヲ使用スヘシ

三、量水標ハ木製トシ目盛板ハ幅約十二粍厚約三粍長一米又ハ二米トシ其ノ目盛ノ樣式ハ左圖ニ依ルヘシ



四、量水標ハ左右及背面ヲ赤色ニ塗リ建設月日番號、省名ヲ記入スヘシ

五、量水標ハ調査ヲ必要トスル既設及豫定取入口竝排出口、築堤箇所等ニ設置スヘシ

六、量水標ハ普通十乃至十五粍角材ヲ疊木トシ埋設スルカ又ハ堅固ナル工作物若クハ岩盤ヲ利用シ固着セシメ之レニ目盛板ヲ取付クヘシ

七、量水標ハ上地ノ狀況ニ依リ同一橫斷線上ニ數個ニ分チテ建設シ又ハ傾斜セシムルコトヲ得但シ何レノ場合ニ於テモ同一基点ヲ標準トシ目盛板ノ標線ヲ以ツテ直ニ各水位ノ垂直高ヲ讀ミ得ル樣ナスヘシ

八、量水標ノ零點高ハ設置個所ノ最大渇水位以下ニ置キ附近ノ參謀本部水準基標ト
ノ関係ヲ測定シ置クヘシ

九、観測ハ特別ナル場合ヲ除キ必要ナル期間ヲ限リ三箇年以上之ヲ継續スヘシ

十、他官廳ノ観測又ハ既設ノ量水標ニシテ本計畫ニ利用シ得ラルルモノハ之ヲ利用スヘシ

十一、観測人ヲ定メ水位ヲ観測セシムル場合ハ左ノ心得ニ據ラシムヘシ

水位観測人心得

(一) 観測人ハ本心得ニ據リ誠實ニ其ノ任務ヲ盡スヘシ

本心得ニ明記ナキ事項ニ付テハ班主任ニ問合スヘシ

(二) 観測人ハ毎日午前十時量水標ヲ検シ直ニ水位日表ニ水位ヲ記入スヘシ

観測時刻ハ班主任ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ別ニ指定スルコトアルヘシ

(三) 水位日表ニハ尚天候、風雨、出水、暴風、地震、堤防ノ破壊又ハ漲溢等ノ概況ヲ記事欄ニ記入スヘシ

(四) 水位日表ハ毎月一日其ノ前月分ヲ取纏メ之ヲ班主任ニ送付スヘシ

水位日表ハ其ノ控ヲ取リ順次綴込ミ一箇年分毎ニ取纏メ保管スヘシ

(五) 洪水ノ際特ニ指定シタル水位ニ達シタルトキハ一時間毎ニ量水標ヲ検シ其ノ水位及出水、風雨等ノ模様ヲ洪水位表ニ記入スヘシ

洪水位表ニハ最高水位及其ノ時刻ヲ記事欄ニ記入スヘシ

洪水位表ハ其ノ控ヲ取リテ水位表ト共ニ保管シ置キ直ニ班主任ニ送附スヘシ

(六) 風雨、出水等ノ場合ハ量水標ノ流失破損等ヲ生セサル様注意スヘシ

(七) 量水標ニ舟筏ヲ繋キ其ノ他量水標ヲ毀損スヘキ所爲ナカラシムル様注意スヘシ

(八) 量水標ノ流失又ハ損傷ヲ生シタルトキハ直ニ假標ヲ設クヘシ

本項ノ場合及量水標ノ修覆ヲ必要ト認メタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ班主任ニ報告スヘシ

(九) 病氣其他ノ事故ニ依リ観測ニ從事スル事能ハサル時ハ代人ヲ定メ其ノ氏名、事由等ヲ直ニ班主任ニ報告スヘシ

(十) 水位日表用紙、諸報告ニ要スル郵便切手類其他必要ノ物品竝假標設置等ニ要シタル費用ハ本省ヨリ支給スヘシ

(三) 流量

一、流量ノ實測方法

(イ)、流速計測法

イ、流速計ハ流速約三十糎以上ノ場合ニ於テ使用スヘシ

ロ、流速計ヲ使用シ流速ヲ測ラムトスルトキハ流心ニ直角ヲナス横断線ノ水平距離約二米毎ニ垂線ヲ下シタルモノト想像シ其ノ垂線中毎三十糎ノ點ニ於テ流速ヲ測定スヘシ但シ断面ノ形狀ニ依リ此ノ垂線距離及水深ヲ増減スルコトヲ得

ハ、各垂線ニ於テハ尚水面ヨリ水深六割ニ相當スル点ニ於ケル流速測定ヲナシ能ハサル場合ニ於テ其ノ此ノ流速ハ垂線中ノ多數ノ点ニ於ケル流速ノ垂線中ノ平均速度ト看做ス

二、測定ノ結果ハ流量測定表(流速計測法)ニ記入スヘシ

(ロ)堰測法

イ、堰測法ハ横断面小ニシテ土砂ノ流出少ク河床良好ニシテ漏水等ノ缺點ナク且ツ流速小ナル場合ニ使用スヘシ

ロ、堰ノ開口ハ矩形又ハ直角三角形ニシテ各辺ハ鋭縁ヲナスモノタルヘシ

ハ、堰ハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

矩形堰ノ場合

1、水頭ハ三糎乃至三十糎ナルコト

2、水頭ハ堰ノ位置ニ於ケル水深ノ四分ノ一以下タルコト

3、堰開口ノ幅ハ水頭ノ三倍以上ナルコト

4、堰ノ幅ハ水頭ノ九倍以上ナルコト

5、堰ノ上流ニ於ケル流水横断面積ハ堰開口面積ノ七倍以上ナルコト

6、堰ハ河流ニ直角ナルコト

7、堰頂ハ水平ナルコト

8、透水ナキ様適當ノ構造ヲナスコト

直角三角形堰ノ場合

1、水頭ハ三糎乃至三十糎ナルコト

2、水頭ハ堰ノ位置ニ於ケル水深ノ二分ノ一以下タルコト

3、堰ノ上流ニ於ケル流水ノ横断面積ハ堰開口面積ノ三倍以上ナルコト

4、堰ハ流心ニ直角ナルコト

5、角ノ二等分線ハ鉛直ナルコト

6、透水ナキ様適當ノ構造ヲナスコト

ニ、水頭ハ堰ノ上流二米以上ヲ隔リタル位置ニ杭ヲ打チ之ヲ尺度ヲ附シテ測ルヘシ

ホ、流量ハ左ノ公式ニ依リ計算スヘシ

矩形堰　接近速度ナキ場合

$$Q = 1.838\,BH^{\frac{3}{2}}$$

Q ……流量　立方米/秒

B ……堰開口ノ幅　米

H ……水頭

接近速度アル場合

$$Q = 1.838\,B\left\{(H+\frac{V^2}{2g})^{\frac{3}{2}} - (\frac{V^2}{2g})^{\frac{3}{2}}\right\}$$

V ……接近速度　秒/秒

g ……重力ノ加速度（9.8 m/秒²）

喞筒吸縮ノ場合

$$Q = 1.838\,(B - 0.2H)H^{\frac{3}{2}}$$

直角三角形堰

接近速度ナキ場合　$Q = 1.40\,H^{\frac{5}{2}}$

Q ……流量　立方米/秒

H ……水頭　米

ヘ、測定ノ結果ハ流量測定表（堰測法）ニ記入スヘシ

(ハ)　浮子測法

イ、浮子測法ハ概測ニ過キサルヲ以テ前ニ法ノ測法ヲ使用シ能ハサル場合ニ使用スヘシ

ロ、浮子ハ表流浮子トス

ハ、浮子ヲ用ヒテ流量ノ測定ヲナサムトスルトキハ横断面一様ニシテ流身直線ヲナス場所ヲ選フヘシ

ニ、浮子測定法ハ浮子ヲ流スヘキ區間ノ上流及下流ニ於テ流身ト直角ヲナス二個ノ横断線ヲ設定シ浮子カ各横断線ヲ通過セシ時間ヲ測リ流量ヲ測定スヘシ

ホ、浮子ヲ流スヘキ區間ノ距離ハ十五米以上トシ浮子ノ通過時間ハ三十秒以上タラシムルヲ要ス但シ止ムヲ得サル場合ニ限リ特ニ其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

ヘ、浮子ハ上流横断線ノ上約十米ノ處ニ於テ横断線内数箇所ニ流下スルモノトス

ト、浮子ニ依リテ流速ヲ測リタル場合ハ左式ニ依リテ平均流速ヲ計算スヘシ

$V = C \times U$

U …… 表面速度

V …… 平均速度

C …… 係数

径深	C 石積	C 土水路
0.15	.74	.80
0.30	.77	.65
0.60	.79	.71
0.90	.80	.73
1.2	.81	.75
1.5	.81	.76
1.8	.81	.77
2.1	.81	.78
2.4	.82	.78
2.7	.82	.78
3.0	.82	.78
3.3	.82	.78
3.7以上	.82	.79

チ、測定ノ結果ハ流量測定表（浮子測法）ニ記入スヘシ

（二）公式測法

イ、流量測定地点ハ横断面一様ニシテ流身直線ヲナシ且河底ノ勾配一様ナル場所ヲ選フヘシ

ロ、水面勾配ハ横断線ノ上下百米以上ニ亘リ精密ニ之ヲ測定スヘシ

ハ、流速ハ左記ニ依リ計算スヘシ

$V = \frac{N \cdot R}{\sqrt{R+D}}$

N.Dハ農業土木學會編「メートル」式水流計算要表ニ依ル

V = 平均流速

R = 径深 = $\frac{A}{P}$

A = 横断面積

P = 潤邊

S = 水面勾配

二、流量測定地點

流量測定地點ハ可成流身ニ変化尠ナク且伏流ノ虞ナキ箇所ヲ選フヘシ

三、流量ノ査定

(イ) 流量査定ノ結果ハ必要ニ應シ之ヲ各地点ニ於ケル水位観測ノ結果ト對照シテ之ヲ決定スヘシ

(ロ) 水位ニ依リテ流量ヲ算定スル流量曲線式ハ左ノ如シ

$Q = a + bh + ch^2$ ……（ノ）

但シ Q ハ流量 h ハ水位 a、b 及 c、係数トス

今流量測定ノ結果 $h_1\ h_2\ h_3$ ---------- h_n トナル水位ニ對スル流量ヲ q_1, q_2, q_3 ---------- q_n トシ此等ノ値ヲ (1) 式ニ挿入スルトキハ左ノ觀測方程式ヲ得ヘシ

$$\left.\begin{aligned} a + bh_1 + ch_1^2 &= q_1 \\ a + bh_2 + ch_2^2 &= q_2 \\ a + bh_3 + ch_3^2 &= q_3 \\ \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots & \\ a + bh_n + ch_n^2 &= q_n \end{aligned}\right\} \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (2)$$

$$+$$

$$na + b\Sigma h + c\Sigma h^2 = \Sigma q$$

此等ノ方程式ヲ取纏メ次ノ聯立方程式ヲ作ル

$$\left.\begin{aligned} an + b\Sigma h + c\Sigma h^2 &= \Sigma q \\ a\Sigma h + b\Sigma h^2 + c\Sigma h^3 &= \Sigma hq \\ a\Sigma h^2 + b\Sigma h^3 + c\Sigma h^4 &= \Sigma h^2 q \end{aligned}\right\} \cdots\cdots\cdots\cdots (3)$$

此ノ聯立方程式ヨリ a、b 及 c ノ値ヲ求ムルノ順序方法ハガウス氏ノ所説ニ依ルヲ便トス

計算

$n.\ \Sigma h.\ \Sigma h.^2\ \Sigma q$

$\Sigma h^2\ \Sigma h^3\ \Sigma hq$

$\Sigma h^4\ \Sigma h^2 q$

$$\Sigma h^2 - \frac{\Sigma h}{n}\Sigma h = \Sigma' h^2$$

$$\Sigma h^3 - \frac{\Sigma h}{n}\Sigma h_2 = \Sigma' h^3$$

$$\Sigma hq - \frac{\Sigma h}{n}\Sigma q = \Sigma' hq$$

$$\Sigma h^4 - \frac{\Sigma h^2}{n}\Sigma h^2 = \Sigma' h^4$$

$$\Sigma h^2 q - \frac{\Sigma h^2}{n}\Sigma q = \Sigma' h^2 q$$

檢算

$1 + h + h^2 = S$ トセハ次ノ如ク

ナラサルヘカラス

$$n + \Sigma h + \Sigma h^2 = \Sigma S$$

$$\Sigma h + \Sigma h^2 + \Sigma h^3 = \Sigma hS$$

$$\Sigma h^2 + \Sigma h^3 + \Sigma h^4 = \Sigma h^2 S$$

$$\Sigma q + \Sigma hq + \Sigma h^2 q = \Sigma qS$$

$$\left.\begin{aligned} \Sigma hS - \frac{\Sigma h}{n}\Sigma S &= \Sigma' hS \\ \Sigma h^2 S - \frac{\Sigma h^2}{n}\Sigma S &= \Sigma' h^2 S \end{aligned}\right\}$$ トセハ次ノ如クナラサルヘカラス

42

$$\Sigma' h^4 - \frac{\Sigma' h^3}{\Sigma' h^2}\Sigma' h^3 = \Sigma'' h^4$$

$$\Sigma' h^2 q - \frac{\Sigma' h^3}{\Sigma' h^2}\Sigma' hq = \Sigma'' h^2 q$$

$$a = \frac{\Sigma q}{n} - b\frac{\Sigma h}{n} c - \frac{\Sigma h^2}{n}$$

$$b = \frac{\Sigma' hq}{\Sigma' h^2} - c\frac{\Sigma' h^3}{\Sigma' h^2}$$

$$c = \frac{\Sigma'' h^2 q}{\Sigma'' h^4}$$

$$\Sigma qs - \frac{\Sigma q}{n}\Sigma s = \Sigma' qs$$

$$\Sigma' h^2 + \Sigma' h^3 = \Sigma' hs$$

$$\Sigma' h^3 + \Sigma' h^4 = \Sigma' h^2 s$$

$$\Sigma' h^2 + \Sigma' h^3 = \Sigma' hs$$

$$\Sigma' h^3 + \Sigma' h^4 = \Sigma' h^2 s$$

$$\Sigma hq + \Sigma' h^2 q = \Sigma' qs$$

$$\Sigma' h^2 s - \frac{\Sigma' h^3}{\Sigma' h^2}\Sigma' hs = \Sigma'' h^2 s$$

$$\Sigma' qs - \frac{\Sigma' hq}{\Sigma' h^2}\Sigma' hs = \Sigma'' qs$$

トセバ次ノ如クナラザルベカラズ

$$\Sigma'' h^4 = \Sigma'' h^2 s \quad \Sigma'' h^2 q = \Sigma'' qs$$

求メ得タル a b 及 c ノ値ヲ(ハ)式ニ挿入セバ流量曲線式ヲ得ベシ

例

$h_1 = 0.574$ m ---------- $Q_1 = 9.56$ m³/sec

$h_2 = 0.438$ ---------- $Q_2 = 6.68$ "

$h_3 = 0.398$ ---------- $Q_3 = 5.68$ "

$h_4 = 0.256$ ---------- $Q_4 = 3.16$ "

$h_5 = 0.512$ ---------- $Q_5 = 8.82$ "

此等ノ實測値ヲ $a + bh + ch^2 = q$ ナル(ハ)式ニ入レバ所要ノ流量曲線式ハ

$$Q = 1.007 + 3.618h + 20.956h^2 \text{ トナル}$$

43

(ニ) 流量曲線式ノ水位 h ニ種々ノ値ヲ入レテ之ニ相當スル流量ヲ算出シ方眼紙ニ水位ヲ横距流量ヲ縦距トシ流量曲線ヲ畫キ且實測セシ水位、流量ヲ夫々横距、縦

距ニ取リ其ノ位置ヲ示スヘシ

(ニ) 流量曲線図ノ餘白ニ測定箇所ノ横断面及流量曲線式ヲ記入スヘシ

(ホ) 流量曲線ヲ整定シタルトキハ水深及流量ヲ實測シ果シテ曲線カ事實ニ一致スルヤ否ヤヲ照査スヘシ

(四) 用水量

(イ) 用水量ノ實測ハ適當ノ田區ヲ選ヒ畦畔ヨリ水ノ滲透ヲ防止シ一定量ノ水ヲ湛水セシメ之ニ尺度標ヲ設ケ降雨ナキ日ノ二十四時間ノ減水深ヲ約七日毎ニ測定スヘシ

(ロ) 實測ニ供シタル田區ノ地積、表土ノ性質、深、心土ノ性質、地下水位、稲ノ生育狀態、灌漑水深等ヲ調査シ置クヘシ

(ハ) 觀測人ヲ定メ減水深ヲ觀測セシムルヘシ

(五) 水利関係

(イ) 灌漑ニ関シテハ地區内竝地區外ニ於テ其ノ影響アリト認ムル範囲ヲ調査シ之ヲ表示シ且取入口ノ位置、灌漑區域等ヲ示ス略図ヲ添付スヘシ

地區内(外)灌漑ニ関スル調査

用水源名称	用水取入口位置	現在取入水量	灌漑反別	用水過不足ノ現況及其原因	慣行有無
			陌(反)		

排水ニ関シテハ前項ニ準シ調査スヘシ

(ロ) 流木、筏流等ニ付テハ流下ノ方法、季節及分量ニ関シ調査スヘシ

(ハ) 旱水害ノ程度ノ異ル毎ニ被害反別ヲ分チ被害程度ハ平均收量ニ對スル減收歩合ヲ以テ表示スヘシ但シ必要アル場合ハ略図ヲ添付スヘシ

旱害(水害)調査表

年次	作付反別	被害反別			備考
		收穫皆無	何割以上減收	〃	
			計		
					單位ハ陌又ハ反

備考欄ニハ風、虫害其ノ他ノ原因ニ依ル被害見込歩合ヲ示スヘシ

第四　經濟狀況

一、經濟狀況ニ付テハ耕地利用ノ狀況、農村ノ概況、地價、地代及必要ナル材料ノ單價等ヲ調査スヘシ

二、耕地利用ノ狀況ニ付テハ現狀ニ依ル利用別見込地積、代表作物ノ種數等ヲ調査シ利用ノ方法ヲ示スヘシ

三、農村ノ概況ニ付テハ人口ノ粗密及移動ノ狀況、職業狀態、貧富ノ程度、農業勞力ノ多少、賃金等ノ概要ヲ調査スヘシ

四、地域内ノ賃貸價格及小作料ハ地目別ニ調査シ且賃貸價格ト賣買價格トヲ示スヘシ

地目	平均賃貸價格（反當）	平均賣買價格（反當）	平均小作料（反當）	備考
				單位ハ畝又ハ反

第五　氣象

一、地域ノ氣象ニ付テハ氣象狀態ノ可成類似セル土地ノ觀測記錄ニ付最近十箇年以上ニ亘リ計畫上必要ニ應シ左記ノ事項ヲ調査シ地域ト相違ノ点ヲ示スヘシ但シ降雨量ニシテ計畫上實測ヲ要スルトキハ之ヲ觀測スヘシ

各月平均　氣　溫
同　蒸　發　量
同　降　水　量
同　降水日數
最大日降水量第五位迄（時降水量ヲ記載スヘシ）
連續最大降水量第五位迄（日降水量ヲ記載スヘシ）
連續最長旱魃日數第五位迄（日數ハ日降水量五粍以下ヲ除キ計算スヘシ）
主ナル風向
時降水量
潮　位

二、降水量ノ觀測ハ雨量計又ハ自記雨量計ニ依ルヘシ

(一)　雨量計ニ依ルトキハ特別ノ場合ヲ除キ一日一回午前十時ニ觀測シ日降水量表ニ記入スヘシ

(二) 観測ハ特別ノ場合ヲ除キ必要ナル期間ヲ限リ三箇年以上之ヲ継続スヘシ

(三) 雨量計ノ配置ハ氣象、地形ノ如何及計畫ノ程度ヲ顧慮シ雨量計一箇ニ對スル流域面積ヲ約一二〇平方粁乃至三〇〇平方粁（八方里乃至二十方里）トスヘシ

(四) 観測人ヲ定メ降水量ヲ観測セシムル場合ハ左ノ心得ニ據ラシムヘシ

降水量観測人心得

(一) 観測人ハ本心得ニ據リ誠実ニ其ノ任務ヲ盡スヘシ

(二) 観測人ハ特ニ指定シタル場合ノ外毎日午前十時雨量計ヲ檢シ直ニ其ノ降水量ヲ降水日表ニ記入スヘシ

(三) 降水量ハ粍ニテ測リ其ノ十分ノ一迄讀ムヘシ

(四) 降雪ノ際ニハ附近ニ於ケル積雪ノ深サヲ測リ之ヲ記事欄ニ記入スヘシ

(五) 観測當日午前十時ニ測リタル降水量ハ前日ノ降水量欄内ニ記入スヘシ

(六) 降水アルモ翌朝十時ニ至リ〇、一粍以上ノ量ニ達セサルトキハ當該日ノ降水量欄内ニハ〇、〇ト記入シ降水全クナキ日ノ欄ニハ黒線ヲ引クヘシ

(七) 強雨雪アリタル場合ハ、定時刻ニ至ラサルモ直ニ之ヲ測リ其ノ雨雪量及連續時間ヲ記事欄内ニ記入シ一日中ノ全量ハ降水量欄内ニ記入スヘシ

(八) 記事欄内ニハ雨雪ノ降リ初メ降リ止リ、風ノ方位及其ノ變リ時限並強雨ノ降リ初メヨリ降リ止リタル継續時間及其ノ量其ノ他氣象上ノ著シキ變化ハ之ヲ記入スヘシ

(九) 降雨量日表ハ毎月一回其ノ前月分ヲ取リ纏メ之ヲ班主任ニ送付スヘシ降雨量日表ハ其ノ控ヲ取リ順次綴リ込ミ一箇年分毎ニ取リ纏メ保管スヘシ

(十) 雨量計ハ鄭重ニ之ヲ取扱ヒ若シ破損ヲ生シタル場合ニハ速ニ班主任ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

(十一) 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ観測ニ従事シ能ハサルトキハ代人ヲ定メ其ノ氏名事由等ヲ速ニ班主任ニ報告スヘシ

(十二) 降水量日表ノ用紙、諸報告ニ要スル郵便切手類其他必要ナル物品ハ本省ヨリ支給スヘシ

乙 計畫

第一 一般計畫

一般計畫ニ付テハ各部ノ計畫ヲ綜合シテ其ノ要領ヲ示シ且計畫実施上支障ノ有無支障ニ對スル處理方法、事業年度割等ヲ記載スヘシ

第二 水利

(一) 溜池

一、地質

地層ノ地質、深浅ヲ明カニシ必要アル場合ハ断面図ヲ添付スヘシ

二、築堤

(イ) 位置ハ一覧図ニ示シ別ニ築堤及所属構造物ノ位置ヲ明カニスル平面図ヲ添付スヘシ

(ロ) 土堰堤ノ横断面ハ大体左ノ標準ニ依ルヘシ但シ犬走及波刎ニ付テハ相當考慮ヲナスヘシ

堤高(m)	内法(割)	外法(割)
三——六	一、八——二、〇	一、五——一、八
六——一〇	二、〇——二、五	一、八——二、〇
一〇——一五	二、二——二、七	二、〇——二、二
一五——二〇	二、五——三、〇	二、〇——二、五
二〇——三〇	三、〇——四、〇	二、五——三、〇
三〇——	三、〇——四、五	二、五——三、五

(ハ) 堰堤ノ最高水位上ノ餘裕ハ左式ヲ参照シ相當餘裕ヲ附スヘシ

$$H = D + h + C$$

H = 満水面上餘裕高(m) D = 餘水吐上溢流水深(m)

h = 波高(m) Stevenson氏ノ公式ニ依ル

C = 更ニ安全ノ為ニ加ヘル高サデ 0.6m〜1m

波高ヲ決定スル Stevenson氏公式ハ次ノ通リデアル

$$h = 0.762 + 0.0106\sqrt{l} - 0.0465\sqrt[4]{l}$$

$$= 0.457\sqrt{f} + (0.762 - 0.304\sqrt[4]{f})$$

式中 l = 對岸迄ノ距離(m) f = 同ジク(浬) = 1853.2m

(ニ) 馬踏幅

$$W = 0.6 + 1.1\sqrt{h} \quad (トロートワイン)$$

$$W = \frac{h}{5} + 1.5 \quad (メリマン)$$

W ---------- 馬踏ノ幅

h ---------- 水深

(ホ) 石工堰堤ノ横断面ハ物部氏公式ニ依リ計算スルヲ一般トス

三、溜池容積ノ決定ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

(イ) 溜池容積ノ決定ハ灌漑期間各月ノ集積量ト所要ノ用水量トヲ比較對照シ各月ノ貯水残量ヲ推定シテ灌漑ニ不足ヲ来ササル程度ノ貯水全量ヲ試算ニ依リ験出シ之ニ溜池内ノ相當損失量ヲ加ヘタルモノヲ容積トス

(ロ) 前法ニ依リ求メタル容積ハ最大旱天連續日数ヲ基礎トシ算出シタル貯水量ニ比較シ相違甚シキ場合ハ相當加減ヲナスヘシ

(ハ) 容積決定ニ用フル灌漑期間ノ月別降水量ハ最近十箇年間ノ月平均降水量以内

ノモノノミヲ平均シタルモノトス

四、流域及流去量

流域面積ハ参謀本部地図ニ依リ流去歩合ハ可成實測シ其ノ結果ヲ参照シ之ヲ決定スヘシ

五、餘水吐通水能力

餘水吐通水量ノ算定ハ排水路ノ洪水量算定ニ準ス

(二) 水路

一、位置

位置ハ一覧図ニ示シ別ニ實測縦横断面図ヲ添付スヘシ

二、附属工作物

附属工作物ノ位置ハ一覧図ニ示シ別ニ構造図ヲ添付スヘシ

三、流量

(イ) 排水路ノ洪水量ハ既往ノ事実ヲ調査シ尚左ノ方法ニヨリ算出シタルモノト比較對照シ決定スヘシ

(ロ) 洪水量ノ算定ハ流域面積ヲ参酌シ最大時降水量、最大四時間降水量、最大八

時間降水量、最大十二時間降水量、最大日降水量等適宜ノ雨量ヲ選ビ之ニ流去歩合及流域面積ヲ乗スヘシ

四、流速

(イ) 水路ノ流速計算ハ左式ニ依ルヘシ

明渠ノ流速計算式 $V = \dfrac{N\ R}{\sqrt{R} + D}$ （前出）

逆サイフオン流速計算式 $H = \dfrac{V^2}{2g}\left(1 + f_1 + f_2 \dfrac{L}{R}\right)$

H ＝水頭ノ損失高（m）　f_1 ＝流入水頭ノ係数

f_2 ＝摩擦係数（サイフオン内面ニ於テ摩擦ノタメニ損失スル水頭ノ係数）

L ＝管ノ長サ（m）　V ＝平均速度（管中ノ速度 m/sec）

R ＝動水半径＝$\dfrac{A}{P}$　g ＝重力ノ加速度 ＝ 9.8（m/sec^2）

又接近速度ノ存在スル場合ハ次ノ如クナル

$$H = \left(1 + f + f_2 \frac{L}{R}\right)\frac{V^2}{2g} - 0.05097\, v^2$$

v ＝接近速度

上式ニ於テ f_2 ハ次式ニ依リテ定メラル

$$f_2 = a\left(1 + \frac{b}{R}\right)$$

a ト b ハ使用スヘキ材料ニテ次表ノ如ク異ル

材料	a	b
滑カナル鉄管	0.00497	0.0256
銹ビタル鉄管	0.00996	0.0256
平滑ナルセメント塗又ハ削リタル木管	0.00316	0.0305
煉瓦又ハ板張	0.00401	0.0700
粗石積又ハ石張	0.00507	0.2500

管流速計算式

$$V = \frac{1}{n} R^{\frac{2}{3}} S^{\frac{1}{2}}$$

V ＝平均流速（m/sec）　R ＝動水平均深（m）

S ＝水面勾配　n ＝粗面係数（クッター式ノモノト同様）

(ロ) 水路ノ最小流速

R. G. Kennedy 氏ニ依レバ細微土ノ流澱ヲ防止スル水路ノ限界流速ハ次ノ公式ニ依リ求メラル

$V_o = Cd^n$　　V_o = 限界流速 (m/sec)　　d = 水深 (m)

C = 常数 (土質ニヨリ異ル)

而シテ Punjab 洲ニ於ケル実験ノ結果ハ次ノ如クデアル

$V_o = Cd^{0.64}$ (m/Sec)

C ノ値ハ次ノ如シ

輕鬆ナル砂質細微土	0.535
微細砂土	0.548
輕鬆ナル細砂土	0.587
砂質壌土	0.645
粗砂土	0.698

(ハ) 用水路ノ最大流速ハ大体左ノ標準ニ依ルヘシ

土質	平均流速 m/sec
非常ニ輕キ純砂	0.23 ~ 0.30
輕ク且緻密ナラサル砂	0.30 ~ 0.46
粗石及輕砂土	0.46 ~ 0.61
通常ノ砂土	0.61 ~ 0.76
砂質壌土	0.76 ~ 0.84
通常ノ壌土、沖積土及火山灰土	0.84 ~ 0.91
固キ壌土及埴質壌土	0.91 ~ 1.14
凝結セル埴質壌土及通常ノ礫土	1.23 ~ 1.52
粗礫磊石及砂利	1.52 ~ 1.83
礫岩、凝結礫、軟質磐岩、硬土層、軟質水成岩	1.83 ~ 2.44
硬岩	3.05 ~ 4.57
混凝土	4.57 ~ 6.10

(二) 排水路ノ最大流速ハ特ニ堅固ナル護岸ヲ施ス場合ヲ除キ二、五米ヲ越ヘサル様ナスヘシ

五、横断面

(イ) 用水路断面ニ於ケル深サニ對スル底幅ノ比

用水路		
水路ノ上幅	底幅	水深
一八米以上	一二	一六
九―一八米	六	一二
四―九米	四	八
一―四米	二	六
一米以内	三	

(ロ) 水路ノ内外法ハ大体左ノ標準ニ依ルヘシ

岩盤中ニ堀鑿セルモノ　二分五厘乃至七分五厘

堅固ナル礫質粘土又ハ壌土中ニ堀鑿セルモノ　五分乃至一割

壌土中ニ盛切両様ヨリ成ルモノ　一割乃至一割五分

砂質壌土中ニ盛切両様ヨリ成ルモノ　一割二分乃至二割

砂土中ニ盛切両様ヨリ成ルモノ　一割五分乃至二割五分

(ハ) 餘裕

一般ニ高水位ノ餘裕ハ左ノ如シ

高水面上ノ餘裕高 $= \frac{1}{3} \times$ 水路ノ水深

但シ 30 cm ≦ 高水面上ノ餘裕高 ≦ 90 cm

排水路ノ最高水位上ノ餘裕ハ豫定流量ノ二倍ヲ流下シ得ヘキ假定断面ノ水位迄ヲ採ルヘシ

(二) 馬踏幅

馬踏幅ハ道路ニ兼用スル場合ヲ除キ〇、六米乃至三米ノ範囲内ニ於テ約水深ニ等シカラシムヘシ

(三) 揚水機

一、揚程

全揚程ハ実揚程ト損失水頭トノ和ニシテ左記ニ依リ計算スヘシ

$H = Ha + He = Ha + h + h' + h''$

H ---------- 全揚程 (米)

Ha ---------- 実揚程 (米)

He ---------- 損失水頭 (米)

h ---------- 摩擦水頭 (米)

$h = \lambda \frac{L}{d} \frac{v^2}{2g}$ h = 水頭損失

λ = 係数ニシテ表面ノ粗度、流体ノ粘度
流速及管ノ内径ノ大小ニ依リテ変ル

L = 管ノ長サ (m) d = 管ノ直径 (m)

v = 流速 (m/sec) g = 重力ニ依ル加速度 (9.80 m/sec²)

h' ---------- 流入水頭 (米)

$h' = \zeta_1 \frac{v^2}{2g}$ (m)

v = 吸込管中ノ流速 (m/sec)

ζ_1 = 係数ニシテ其ノ平均値ハ次ノ如シ

ポンプノ吸込管端カ円筒上ノ場合 $\zeta = 0.5$

〃 喇叭状ノ場合 $\zeta = 0.1$

〃 理想ノアル場合 $\zeta \geqq 1$

h'' 出口ノ損失水頭 (米)

$h'' = \zeta_5 \frac{v^2}{2g}$ (m)

大気中ニ放水スル場合 $\zeta_5 = 1$

直管ヲ以ツテ水中ニ放水スル場合 $\zeta_5 = 1$

円錐管ヲ以ツテ水中ニ放水スル場合 $\zeta_5 < 1$

三、喞筒ノ口径

喞筒ノ口径ハ大体左ノ標準ニ依ルヘシ

口径 (粍) d	揚水量 (秒立方米) Q	断面積 (平方米) A	流速 (秒米) V	口径 (粍) d	揚水量 (秒立方米) Q	断面積 (平方米) A	流速 (秒米) V
50.8	0.0037	0.0020	1.83	406.4	2.9784	1.3006	2.29
63.5	0.0058	0.0032	1.80	431.8	3.3840	1.4586	2.32
76.2	0.0086	0.0046	1.86	457.2	3.7934	1.6351	2.32

101.6	0.0156	0.0081	1.92	482.6	4.2644	1.8302	2.33
127.0	0.2425	0.1263	1.92	508.0	4.6987	2.0253	2.32
152.4	0.3660	0.1821	2.01	533.4	5.1060	2.2297	2.29
177.8	0.5080	0.2490	2.04	558.8	5.7116	2.4619	2.32
203.2	0.6729	0.3159	2.13	584.2	6.2341	2.6756	2.33
228.6	0.9156	0.4106	2.23	609.6	6.7892	2.9264	2.32
254.0	1.1395	0.5110	2.23	635.6	7.3282	3.1587	2.32
279.4	1.3674	0.6132	2.23	660.4	7.9316	3.4188	2.32
304.8	1.6482	0.7293	2.26	685.8	8.5353	3.6790	2.32
330.2	1.9829	0.8547	2.32	711.2	9.3006	3.9577	2.35
355.6	2.2765	0.9941	2.29	736.6	9.9145	4.2735	2.32
381.0	2.6168	1.1427	2.29	762.0	10.6977	4.5522	2.35

$$d = \sqrt{\frac{Q}{V} \times \frac{4}{\pi}}$$

d ------- 口 径 (米)

Q ------- 揚水量 (秒立方米)

V ------- 流 速 (秒米)

但シ口径760粍以上ハ流速2.5米トス

口径ノ定メ方(参考)

揚筒ノ口径ハ其放水管内ノ水速ニ依リ決定サレルモノニシテ水速ハ通常毎秒一、五米乃至三、〇米トシ、揚程ノ低キ場合或ハ送水管ノ非常ニ長キ場合若シクハ口径ノ小ナル場合ニハ一、五米ニ近キ数ヲ採リ揚程高ク或ハ送水管短ク口径大ナルニ従ヒ三、〇米ニ近キ数ヲ採ル、何レノ場合ニ在リテモ水速ヲ小ナラシムル程損失水頭ガ減セラルルコトトナリ従ッテ所要馬力ガ少ニナル譯ナリ

次表ハ水量トポンプ口径トノ関係ヲ示セルモノナリ

口径 粍	毎秒立米	毎秒立米	口径 粍	毎秒立米	毎秒立米
50	0.53	0.26	425	425.6	212.8
75	1.3.3	6.6	450	477.1	238.5
100	23.6	11.8	475	531.6	265.8

125	36.8	18.4	500	589.0	294.5
150	53.0	26.5	550	712.7	356.3
175	72.2	36.1	600	848.2	424.1
200	94.2	47.1	650	995.5	497.7
225	119.3	59.6	700	1114.5	577.2
250	147.3	73.6	750	1325.3	662.6
275	178.2	89.1	800	1508.0	754.0
300	212.1	101.0	850	1702.4	851.2
325	248.7	124.3	900	1908.5	954.2
350	288.6	144.3	950	2126.5	1063.2
375	331.3	165.6	1.000	2356.2	1178.1
400	377.0	188.5			

三、運轉時間

運轉時間ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

灌漑ノ場合　一日平均十六時間乃至二十時間トシ最大用水時期ニ於テニ十四時間運轉スヘシ

排水ノ場合　一日二十四時間運轉トスヘシ

備考　電力ヲ動力トスル場合ハ其ノ供給時間ニ依ルヘシ

四、馬力

馬力ハ左式ニ依リ計算スヘシ

原動力ノ有効馬力（B.H.P）$= \dfrac{13.33 \times QH}{Ep \times Ed}$

Ep ------ 即筒ノ効率ニシテ普通 55% 乃至 65% トス

Ed ------ 傳導効率ニシテ調帯運轉ノ場合ハ 95% 内外トス

但シ蒸汽機関ノ場合ニハ図示馬力（I.H.P）$= \dfrac{B.H.P}{E\ S}$ トス

Es ------ 機関ノ効率ニシテ 80% 乃至 85% トス

五、動力

動力ノ種類ハ土地ノ状況、馬力ノ大小、燃料ノ價格、揚水ノ目的、運轉時間ノ長

堰等ヲ考慮シ大体左ノ標準ニ依ルヘシ

(イ) 電力ヲ容易ニ得ラルル場合ハ馬力ノ大小ニ関セス電力トス

電力ノ場合ハ「サイクル」、供給電圧、電力供給時間、御筒設置箇所ニ至ル引込線ノ距離ヲ調査スヘシ

(ロ) 水力ヲ利用シ得ラルル場合ハ水力「タービン」トス

(ハ) 一台約十五馬力迄ハ石油発動機トス

(ニ) 一台約百二十馬力迄ハ吸入瓦斯発動機トス

(ホ) 一台約百二十馬力以上ハ蒸汽機関トス

第三、費用豫算

(一) 費用豫算ハ左記記載例ニ依リ工事費ニ付テハ用水又ハ排水ニ関スル主要工事費ヲ掲ケ且明細書ヲ添付スヘシ

事業費

費目	金額	備考
第一款 工事費		

第一項 用水費			
堰堤費(溜池 揚水機)			
幹線費			用地費ヲ含ム
第二項 排水費			
開渠費(樋管 揚水機)			
幹線費			用地費ヲ含ム
第三項 雑費			
第二款 事務費			
第三款 豫備費			
計			

事務費ハ左記ノ標準ニ依ルヘシ

工費 五萬円以下 約ニ割

五萬円以上　約一割五分
十萬円以上　約一割
豫備費ハ總費用ノ約五分ヲ標準トスヘシ

(二) 前項ノ外土地改良ニ要スル一切ノ費用概算ヲ記載スヘシ
(三) 職工人夫ノ賃金及工事用材ノ價格ハ計畫當時ノモノヲ標準トスヘシ

第四、收益增加ノ豫想

(一) 收益增加ノ計算ハ左表ニヨリ自作、小作ニ付スル場合トニ分チ尚土地價額ノ增進ヲモ掲クヘシ工事前ノ收量ハ可成最近十箇年ノ實收量ヲ調査シ最高最低ヲ除キ八箇年ノ平均ヲ標準トスヘシ

工事前一〇アール當(反當)收益計算(自作ノ場合)

		收入						支出						差引損益
地目	作物	收量	單價	價格	其ノ他ノ收入	計		肥料代	勞力	向上	公課	水利費	其ノ他ノ支出	計	
									勞銀						

工事後ノ計算モ同一樣式ニ依ルヘシ
工事前一〇アール當(反當)收益計算(小作ニ付スル場合)

收入						支出						差引損益
地目	小作料	單價	價額	計			公課	水利費	其ノ他ノ支出	計		

工事後ノ計算モ同一樣式ニ依ルヘシ
工事前後收益計算(自作ノ場合)

工事前					工事後				
地目	地積	一〇アール當(反當)純收益	計		地目	地積	一〇アール當(反當)純收益	計	
合計									
差引增加純收益									

小作ニ付スル場合ノ工事前後收益計算モ同一樣式ニ依ルヘシ

(二) 工事前後ノ生産物ノ價額其ノ他ハ計畫當時ノモノヲ標準トスヘシ

(三) 土地價額ノ增進ハ左表ニ依リ之ヲ示スヘシ

工事前					工事後				
地目	地積	反當賃貸價額	價額		地目	地積	反當賃貸價額	價額	
計									

差引增進價額 ----------

第五、收支計算

收支計算ハ事業費償還年賦金ト增加純收益トヲ對照シ自作ト小作ニ付シタル場合トニ分チ之ヲ表示シ尚土地價額ノ增進ト事業費總額トノ割合ヲ示スヘシ

第六、其ノ他ノ必要ト認ムヘキ事項

第七、圖面ノ縮尺及記號

(一) 圖面ノ縮尺ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

地區一覽圖　二萬分ノ一ヨリ大ナラサルコト

橫斷面圖　百分ノ一乃至二百分ノ一

縱斷面圖　橫　四千分ノ一　縱　二百分ノ一

構造圖　百分ノ一內外

平面圖　一般圖千分ノ一、部分的ノモノ二百分ノ一

(二) 圖面ノ記號ハ左記凡例ニ依ルヘシ

(イ) 一覽圖凡例

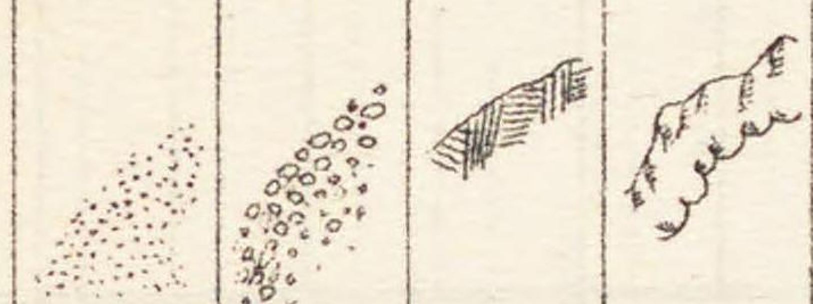
凡例		
現形圖		計畫圖
田	用水方向	現形圖
無色	排水方向	同上赤
黃	同上	計畫圖
畑		

山林	緑							
原野	鼠							
宅地	薄赤							
堤塘	鼠	鼠						
水面	淡藍	同上	赤					
水路	淡藍		赤					
道路	淡褐							
府縣界	黒							
郡市界	〃							
町村界	〃							
用排水方向	黒	同上	赤					
橋梁	〃	同上	〃					
架樋	〃	同上	〃					
樋門	〃	同上	〃					
サイフオン及隧道	〃	同上	〃					
神社	〃							
寺院	〃							
鐵道	〃							
量水標	赤							
雨量計	赤							
取入口	藍	同上	赤					

地區界	赤							
地目界	黒							
同高線	薄黒							
三角点	赤							
水準点	No 1 ⊙ EL 123 赤							
水車	黒							
磁北	黒							
流量測定地点	赤							
洪水氾濫線	藍							
排出口	▲ 藍	同上	赤					

(ロ)縦横断面圖凡例

凡例	硬岩	軟岩	礫及玉石	砂地	土
平面	鼠	鼠	褐	褐	
断面	鼠	鼠	褐	褐	鼠



水位日表

何等何班何川水系何川何等何號量水標何國何府縣何郡市何町村大字何字

種別 / 日次	晴雨	風ノ方向	水	午前十時觀測（標準時） / 量水標零點標高上米 記事	
一日					
二日					
三日					
四日					
五日					
六日					
七日					
八日					
九日					
十日					
十一日					
十二日					
十三日					
十四日					
十五日					
十六日					
十七日					
十八日					
十九日					
二十日					
二十一日					
二十二日					
二十三日					
二十四日					
二十五日					
二十六日					
二十七日					
二十八日					
二十九日					
三十日					
三十一日					
合計				水位 日數	水位 日數
平均				米 米以上 日	米 米迄 日
最高				米 米以上 日	米 米迄 日
最低				米 米以上 日	米 米迄 日

昭和　年　月

觀測者

洪水位観測表

第何班何川水系何川何號量水標何　府縣何　郡市何　町村何　大字何

昭和　年　月　日　観測者氏名

時 ＼ 種別	風ノ方位	晴雨	水	記事
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				

記事ニ最高水位其ノ他水位移動ノ時間ヲ記入スヘシ

92

流量測定表（堰測法）

第何班何川水系何川第何號地點何　府縣何　郡市何　町村何　大字何

昭和　年　月　日　測定者官氏名

日	河川水位	堰口寸法	水頭	接近速度水頭	有効水頭	流量	備考

77

流量測定表（流速計測法）

第何班何川水系何川第何號地點何府縣何郡市何町村大字何

水位何尺何寸何分　天候何　風向何

昭和　年　月　日　一自午 至午　時 時　分 分　測定者　官氏名

垂線ヨノ號 岸リ番	垂線間水離距	水深 D	毎秒速										水面下 0.6×D ニ於ケル流速	垂線中ノ平均流速	断面積	流量
			〃	水面下	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				

流量測定表（浮子測法）

第何班何川水系何川第何號地點

第二　用排水幹線改良事業

●用排水改良事業補助要項ニ関スル通牒（大正一二、四、一七食第一四〇七號食糧局長ヨリ各府縣知事宛通牒）

〔改正〕大正十四年十二月二十三日農第一九四二號

耕地ノ用排水ノ改良ニ関シテハ從來耕地整理事業ノ奨励等ニヨリ相當ノ実績ヲ收メツヽアルモ其ノ関係區域ノ廣汎ニ亘リ事業ノ規模大ナルモノ等ニ在リテハ実行頗ル容易ナラス未タ改良ノ運ニ至ラサルモノモ不尠ト被認候仍テ之カ促進ヲ図ル爲新ニ経費ヲ計上シテ左記用排水改良事業補助要項ノ示ス所ニ依リ補助金ヲ交付スルコトト相成候ニ付テハ可然御配慮相成度依命此段及通牒候也

用排水改良事業補助要項

一　補助金ハ府縣ノ行フ用排水幹線又ハ用排水設備ノ改良事業ニ對シ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ府縣ニ之ヲ交付ス

二　前項ノ用排水幹線又ハ用排水設備ハ用水又ハ排水ノ改良ニ依リテ利益ヲ受クヘキ耕地五百町歩以上ヲ支配スルモノナルコトヲ要ス

三　補助金ノ額ハ事業ノ爲支出シタル金額ノ二分ノ一以内トス

四　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ事業計畫書及事業費年度割豫算書ヲ添ヘ申請書ヲ差出スヘシ

五　事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ　計畫地域ノ現況

ロ　事業ノ目的及計畫説明

ハ　工事ノ仕様

ニ　工事施行ニ依リテ利益ヲ受クヘキ土地ノ市町村及地目別ノ面積

ホ　工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

ヘ　計畫地域ノ現形及豫定平面図

ト　縦横断面図及構造図

チ　事業ノ開始及終了ノ豫定時期

リ　事業費内訳書

ヌ　事業年度割區分

六　工事ニ着手シ又ハ之ヲ完了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

七　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル府縣ハ年度終了後二月内ニ前年度ノ事業成績書及支出決算明細書ヲ添ヘ補助金ノ請求書ヲ差出スヘシ

八　事業計畫又ハ事業費年度割豫算ヲ変更セシムルトキハ認可ヲ受クヘシ事業ヲ停止又ハ廃止セムトスルトキ亦同シ

九　農商務大臣必要ト認ムルトキハ事業計畫又ハ事業費年度割豫算ノ変更ヲ命スルコトアルヘシ

十　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ補助金ノ交付ヲ停止若ハ廃止シ又ハ補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

イ　事業ノ成績不良ナリト認メタルトキ

ロ　事業ノ停止又ハ廃止アリタルトキ

ハ　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

用排水改良事業補助申請ニ関スル件

（大正一四、二、一三農局第三六〇號農務局長ヨリ府縣知事宛通牒）

用排水改良事業補助申請書ニ添付スヘキ事業計畫書ノ記載方ニ付テハ大正十二年度開催ノ

開墾及耕地整理主任官會議ニ於テ協議セル次第モ有之候條爾今右協議シタル記載方ニ準據シ作製相成樣致度爲念及通牒候也

追而爲參考當時協議シタルモノ一部別紙添付致置候尚調査上必要ニ付右形式ニ依ル事業費内訳書以外ニ其ノ明細書添付相成度申添候

（別紙）

用排水改良事業補助申請書ニ添付スヘキ事業計畫書ノ記載方

第一章　計畫地域ノ現況

第一節　位置

第二節　地勢、地貌及土質

第三節　水利狀況

第一項　用水狀況

一　用水系統（圖面添付）

二　用水量

三　用水不足ノ狀況及其ノ原因

四　被害調查表（圖面添付）

五　用水慣行及地域外トノ關係

第二項

一　排水系統（圖面添付）

二　排水不良ノ狀況及其ノ原因

三　被害調查表（圖面添付）

四　排水慣行及地域外トノ關係

第四節　經濟狀況

一　必要ナル材料ノ多少及單價

二　勞力ノ多少及賃金

第二章　事業ノ目的及計畫說明

第一節　事業ノ目的

第二節　計畫說明

第一項　計畫ノ要旨

第二項　用水計畫

一　用水源及水量
二　用水系統（図面添付）
三　用水路（伏越、水路橋、暗渠、樋門等ヲ含ム）
四　頭首工、揚水機
五　附帯工事
六　其ノ他必要ナル事項
第三項　排水計畫
一　排水量
二　排水系統（図面添付）
三　排水路（樋門ヲ含ム）
四　排水機
五　附帯工事
六　其ノ他必要ナル事項
第三章　工事ノ仕様
各工種ニ付工事ノ施行方法及順序等ヲ記載スヘシ
第四章　工事施行ニ依リテ利益ヲ受クヘキ土地ノ市町村及地目別ノ面積
第五章　工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
工事施行ニ依リ得ヘキ利益ハ本工事ニ依リ直接受クヘキ利益ノ外土地改良上必要ナル附隨工事ノ全部完了シタルトキ受クヘキ利益ヲ左記様式ニ依リ算出シ其ノ總額ニ對シ本工事ニ依リテ得ヘキ利益ヲ推定歩合ヲ以テ算出決定スヘシ

工事前及當收益計算

地目	作物	收量	單價	價格	其他收入	計	肥料代	勞力	同上勞銀	公課	水利費	其他支出	計	差引損益

工事後ノ計算モ同一様式ニ依ルヘシ

工事前後收益計算

工事前				工事後			
地目	面積	反當總收益	計	地目	面積	反當總收益	計
合計							

差引增加總收益

備考　收益計算表ニ於テ同一地目ニシテ收量收益ニ等差アル場合ハ上中下三階級位ニ分チ記載スヘシ

土地價額增進表

工事前				工事後			
地目	面積	反當賣買地價	價額	地目	面積	反當賣買地價	價額

差引增進價額

第六章　現形平面図ハ工事施行ニ依リテ利益ヲ受クヘキ地及之ニ隣接スル土地水面ヲ表示スヘキモノニシテ現況説明ト對照シ得ル程度ニ於テ左ノ事項ヲ示スヘシ（凡例ハ明治四十二年十月農商務省告示第四〇七號ニ依ル）

一　府縣郡市町村ノ境界竝ニ其ノ名称及大字ノ名称
二　地目ノ區別
三　河川、道路、堤塘、溝渠、溜池等及其ノ名称
四　各種工作物ノ位置及其ノ名称
五　水流ノ方向
六　同高線及標高
七　高水位、平水位及低水位ノ註記
八　方位縮尺及凡例

豫定平面図ハ現形平面図上ニ計畫説明ト對照シ得ル程度ニ於テ左ノ事項ヲ朱記スヘシ

一　河川、道路、堤塘、溝渠等及其ノ名称
二　各種工作物ノ位置及其ノ名称
三　計畫路線ノ中心線及遞加距離

第六章　現形平面図ハ工事施行ニ依リテ利益ヲ受クヘキ地及之ニ隣接スル土地水面ヲ表示スヘキモノニシテ現況説明ト對照シ得ル程度ニ於テ左ノ事項ヲ示スヘシ（凡例ハ明治四十二年十月農商務省告示第四〇七號ニ依ル）

一　府縣郡市町村ノ境界竝ニ其ノ名称及大字ノ名称
二　地目ノ區別
三　河川、道路、堤塘、溝渠、溜池等及其ノ名称
四　各種工作物ノ位置及其ノ名称
五　水流ノ方向
六　同標線及標高
七　高水位、平水位及低水位ノ註記
八　方位縮尺及凡例

豫定平面図ハ現形平面図上ニ計畫説明ト對照シ得ル程度ニ於テ左ノ事項ヲ朱記スヘシ

一　河川、道路、堤塘、溝渠等及其ノ名称
二　各種工作物ノ位置及其ノ名称
三　計畫路線ノ中心線及遞加距離

第七章　縦横断面図及構造図（主要ナルモノ）
第八章　事業開始及終了ノ豫定時期
第九章　事業費内訳書

事業費内訳書

費目	金額	備考
工事費		
何々河川改修費		
何々水路費		
何々溜池費		
何々揚水機費		
何々潮除堤防費		
何々事務費		
豫備費		
計		

第十章　事業年度割區分

事業年度割區分

工種＼年度	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度
何々河川改修	何杭何町ヨリ何町ニ至ル全部	同上	同上	同上	同上
何々水路	何杭何町ヨリ何町ニ至ル全部	同上	同上	同上	同上
何々溜池	何分	同上	同上	同上	同上
何々揚水機	何分	同上	同上	同上	同上
何々潮除堤防	何杭何町ヨリ何町ニ至ル全部	同上	同上	同上	同上
何々					

用排水改良事業補助ニ付打合ニ關スル件

（大正一四、一二、二三農第一九四二號）
（農務局長ヨリ府縣知事宛通牒）

大正十二年四月十七日附一二食第一四〇七號通牒ノ通改正相成候處事業ノ實行ニ付テハ中央地方常ニ連絡ヲ保チ其ノ成績ヲ擧クルニ遺憾ナカラシメムカ爲將今左記ニ依リ手續御取運相成度此段及通知候也

追而本通牒ハ大正十二年四月十七日一二食局第一三六五號通牒ニ代ル可キ義ト御了知相成度

記

一　補助ノ申請ヲ爲サムトスル場合ハ事業開始ノ前年度八月末日迄ニ補助要項第五號ニ依ル事業計畫書及事業年度割見込調書ヲ具シ打合セラルヘキコト

二　補助ノ見込ノ旨通牒アリタル場合ニ於テハ補助要項ニ基キ遲滯ナク申請セラルヘク此ノ場合ニ於テ前項ニ依リ提出シタル事業計畫書ニシテ變更ナキトキハ其ノ旨ヲ申請書ニ附記シテ之ヲ添附スヘキ事業計畫書ニ代フルコトヲ得ルコト

三　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル後事業計畫又ハ事業費年度割豫算ニ付變更ヲ爲サムトスル場合ハ豫メ本省ト打合ヲ遂ケラルヘキコト

●用排水改良事業ニ關スル件

（大正一五、六、二一農第七五三二號農務局長ヨリ府縣知事宛通牒）

本省奬励ニ係ル用排水改良事業ハ耕地ノ用排水ノ改良ヲ計ルヲ以テ目的トスル事業ニ有之候ハ勿論ノ義ニ候處往々事業ノ表示ノ事務所ノ名稱或ハ事業費豫算等ニ於テ一見内務省主管ニ屬スル河川改修事業ト同一視サレ易キモノ有之監督上不便不尠候ニ付爲今右事業ノ表示ニ付テハ何々川改修事業ト表示スルカ如キコトナク例セハ之ヲ何々川沿岸用排水改良事業或ハ何々川筋農業水利改良事業ト稱スル如ク本省主管ノ事業タルコトヲ明瞭ニ表示セラルル樣致度其ノ他事務ノ名稱或ハ事業費豫算ノ費目等ニ於テモ同樣御配慮相成度此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業ニ關スル件

（昭和四、二、二〇農局第三八二四號農務局長ヨリ府縣知事宛通牒）

用排水幹線改良工事ヲ請負ニ附シ施行スル場合ニ於テ往々其ノ請負者カ更ニ之ヲ他人ニ請負ハシムルモノアリ右ハ請負者カ工事ニ對スル技能經驗ヲ有セサル場合又ハ單ニ其ノ請負金額ヨリ生スル利益ノ獲得ヲ目的トスル場合多キモノト認メラレ事業上弊害ヲ生シ豫定ノ效果ヲ違シ能ハサルノ虞アリ依ツテ工事ヲ請負ニ附シ施行セムトスル場合ニ於テハ請負者ノ資格ヲ嚴選シ下請ハ工事施行上特ニ其ノ必要アル場合ノ外之ヲ認メサル樣御留意相成度此段及通牒候也

●用排水改良事業費豫算繰越ニ關スル件

（昭和四、八、一三農局第二四七〇號農務局長ヨリ府縣知事宛通牒）

用排水改良事業繰越ノ場合ニ於テハ從來大正十二年四月十七日附一二食第一四〇七號用排

水改良事業補助要項第八項ニ依リ事業費年度割豫算ノ変更許可ヲ要スルコトト相成居候處爾今事業年度割豫算書記載ノ府縣會又ハ参事會決議ノ年度割豫算ニ変更ヲ来スコトナク單ニ當該年度所定ノ年度割並事業費年度割豫算ニ對スル其ノ年度内ノ未終了工事又ハ支出決算残額ヲ其ノ儘次年度ニ繰越ヲ為ス場合ニ於テハ同項ニ依ル認可申請ヲ要セサル儀ニ有之候條右御了知相成度此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業ニ関スル件

（昭和十三年七月四日附十三農局第二八八号農務局長ヨリ各府縣知事宛通牒）

用排水改良事業費豫算繰越ニ関シテハ昭和四年八月十三日附四農局第二四七〇號通牒ニ依リ事業費年度割豫算書記載ノ府縣會又ハ参事會決議ノ年度割豫算ニ変更ヲ来スコトナク當該年度ノ事業費豫算ニ對スル決算残額ヲ其儘次年度ニ遞次繰越ヲ為ス場合ニハ事業費年度割豫算ノ変更認可ヲ要セサル儀ニ候處事業年度割區分ニ付テハ工事ノ種類進捗程度等ヲ明確ニ致シ置ク必要有之候ニ付爾今工事着手セサル如キ場合ト雖モ當初提出ノ事業年度割區分ニ変更ヲ生シタル場合ハ変更ノ事由並ニ右ニ伴フ事業費年度割豫算ヲ添附シ計畫書変更認可ヲ受ケラレ度此段及通牒候也

追テ本通牒ハ昭和四年十二月二十三日附四農局第三八四一號通牒ニ代ル可キ儀ト御了知相成度

●用排水幹線改良事業ニ関スル件

（昭和十三年八月十二日附一三農局第三六九五号農務局長ヨリ各府縣知事宛通牒・東京府ハ東京都沖縄ヲ除ク）

貴縣営用排水幹線改良事業ニシテ補助要項第四項ニ依ル國庫補助申請及ハ事業計畫書又ハ事業費年度割豫算書ノ変更認可申請相成場合ニハ府縣會又ハ参事會決議書、府縣制施行規則四十三條ニ依ル継続費繰越計算書寫ヲ添附シ提出スヘキ儀ナルニモ不拘往々其ノ手續ヲ怠ル向有之事務處理上支障不尠候條爾今右手續ヲ怠ラサル様御留意相成度為念此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業ニ関スル件

（昭和七年五月五日附七農局第一九〇〇号農務局長ヨリ各地方長官宛通牒（北海道、東京、山梨、和歌山、島根、徳島、長崎、大分、鹿児島、沖縄ヲ除ク））

用排水幹線改良事業ノ既指令地區ニ對スル國庫補助金請求書ハ用排水改良事業補助要項ニ依リ年度終了後（支拂整理期間ヲ含ム）二ケ月内ニ提出セラルヘキ筈ナルニ近来甚シク遲

延ヲ来タシ中ニハ年度切迫スルニ非サレハ提出セサル向アリ事務處理上支障不尠且ツ檢査ノ關係モ有之爾今右期間内ニ請求書御提出無之場合ハ仍遺憾補助金ハ翌年度ニ繰越ノ上交付可相成場合モ相生スヘク斯クテハ事業ニ及ホス影響モ不尠ト被存候ニ付此点篤ト御留意相成度又事業計畫変更ハ事前ニ於テ當省ニ御打合セアルヘキモノナルニ往々打合セヲ行ハスシテ重要ナル部分ヲ変更シ工事実施後ニ至リ手續ヲ採ラルル向ナキニ非ス斯クテハ事業監督上支障不尠ニ付尓今如斯無斷実施ノ工事ニ對シテハ或ハ補助金ノ交付ヲ見合スヘキモ圖リ難ク候條此点併セテ御留意相成度此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業ニ關スル件

昭和九年七月十一日附九農局第二〇六三號農務局長ヨリ
各地方長官宛通牒（北海道、和歌山、鹿児島、沖縄ヲ除ク）

貴（府）縣管用排水幹線改良事業中工事ノ実施ニ伴ヒ事業計畫書竝事業費年度割豫算書変更ノ必要ヲ生シタルモノニアリテハ事前ニ之カ変更ノ認可ヲ受ケラレ然ル後當該年度ノ事業成績書及支出決算明細書ヲ提出セラルヘキ筈ナルニモ不拘往々之カ手續遅延シ爲ニ事務處理上支障不尠ヲ以テ尓今事業計畫書竝事業費年度割豫算書ノ変更認可ヲ爲スニアラサレハ當該年度ノ事業成績書及支出決算明細書審査上支障ヲ来シ従ツテ之カ手續完了シタル後ニアラサレハ補助金請求書ニ添付スヘキ事業成績書及支出決算明細書ノ記載方及通牒候也

事業成績書及支出決算明細書記載方

第一、何年度何々事業成績書

一、工事ノ方法及狀況

二、竣工程度

三、工事施行後ノ效果

四、其ノ他重要ナル事項

第二、何年度何々事業支出決算明細書

別表ノ通リ

第一表

何々事業支出決算書

第二表

工事費支出決算明細書

（何年度）

費目	何年度豫算額	何年度決算額	差引増減	摘要
工事費				
事務費				
豫備費				
合計				

第三表

工種別出來形調書

工種	數量	豫算額	決算額	差引増減	摘要
掘鑿	間數				
橋梁	箇所				
計					

第四表

請負調書

施行箇所又ハ番號	數量	金額	摘要
自何間至何間	土坪		
第何號橋梁			
合計			

備考

一、豫算明細書ト出來形ト一致セサル場合ハ別ニ豫算明細書ニ準シタル出來形明細書ヲ提出ノコト（但シ豫算ト出來形ト一致セル場合ハ豫算明細書ニ代フルコトヲ得）

一、請負ノ場合ハ金額欄ニ豫算額ヲ記入ノコト

一、工事出來形一覽図ヲ添付スルコト

工種	豫算	請負金額	出来形ニ對スル豫算		支拂金額	
			前年度迄	本年度	前年度迄	本年度
何々工事						
計						

備考　表中前年度本年度ハ其ノ年度名ヲ記載ノコト

第五表　土地買收支出決算明細書

地目	面積	豫算額	決算額	差引増減	摘要
田					
畑					
宅地					
山林					
原野					
計					

第六表　土地買收調書

村名	地番	地目	面積	單價	金額	賣渡人名	摘要

第七表　補償費支出決算明細書

種目	數量	豫算額	支出決算額	差引増減	摘要
障害木伐採					
家屋移轉					
農作物損害					
計					

第八表　補償費調書

第九表

事務費支出決算明細書

種類	数量	単価	金額	摘要
家屋移轉	何坪			
計				

第十表

種目	数量	豫算額	決算額	差引増減	摘要
俸給	人				
旅費	件				
備品	品				
消耗品	品				
雑費					
計					

事務費種目別明細書（俸給）

種類	数量	単価	金額	摘要（氏名等）
主事補				
技手何級	月数			
計				

備考

旅費以下ノ費目ニ付キテハ右表ニ準シ作製スルコト

●用排水幹線改良事業ニ関スル件

（昭和二年十月十五日附二農局第二三六七号及昭和十一年八月十二日附十一農局第二六一号農務局長ヨリ各府縣知事宛通牒）

本省ヨリ用排水幹線改良事業費補助金ノ交付可相成旨通牒有之候テハ機械ノ購入及据付等決定ノ上ハ其ノ都度遅滞ナク契約書、据付図竝機械主要部分構造図御提出相成度此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業ニ付地方起債ニ関スル件

昭和四年十月九日附農第一三一五八号農林次官ヨリ各府縣知事宛通牒（東京、三重、和歌山、徳島、島根、大分、鹿児島、沖縄ヲ除ク）

地方債ノ許可ニ付テハ本年七月十六日内務、大蔵両大臣訓令ノ次第モ有之候處用排水幹線改良事業ニシテ眞ニ緊急避クヘカラサルモノニ付テハ各場合ニ付詮議相成筈ニ候間御了知相成度依命此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業費補助金ヲ受クル團体ノ計算證明ニ関スル件

昭和二年十月十四日附ニ農局第二三三〇號農務局長ヨリ各府縣知事宛通牒（東京ヲ除ク）

昭和二年度以降當省ヨリ用排水幹線改良事業費補助金ノ交付ヲ受クル團体ノ計算証明方ニ関シテハ七月九日附會第九〇九號ヲ以テ當省會計課長ヨリ通牒相成候處同通牒記第二項ニ付テハ左記ニ依リ御處理相成可然為念此段及通牒候也

記

收支計算書ニ添付スヘキ計算證明規程第八十一條ノ書類及事業成績報告書ハ左ノ如シ但シ第一號乃至第四號ノ書類ハ第一回ノ收支計算書ニ添付スルヲ以テ足ルコト

一、用排水幹線改良事業補助申請書寫

二、前號ニ對スル補助金交付ノ指令書寫

三、計畫書

計畫書ハ左ノ各項ニヨリ事業ノ要旨ヲ簡明ニ記載ノコト

(イ) 事業地域ノ位置及現況

(ロ) 事業ノ目的

(ハ) 計畫ノ要旨

(ニ) 工事ノ開始及終了ノ豫定時期

(ホ) 計畫ノ大要ヲ知ルニ足ルヘキ図面

四、收支豫算書

收支豫算書ノ内容ハ事業費ニ関スル府縣會又ハ之ニ代ルヘキモノノ決議書ノ内容ト合致セシムルコト

五、事業計畫、事業費豫算ニ変更アリタルトキ或ハ年度割豫定事業ノ繰延、年度割豫算

ノ繰越其ノ他些少ナル計畫ノ変更等ト雖モ之カ認可ヲ経タルトキハ前各號ニ準シタル書類

六、決算報告書

補助金請求書添付ノ支出決算明細書ト同様ノモノタルコト但シ事務費ニ付テハ例ヘハ俸給何程、旅費何程等費目別ニ記載スルヲ以テ足リ各費目ノ内訳ヲ要セサルコト

七、事業成績報告書

補助金請求書ニ添付ノ事業成績書ト同様ノモノタルコト

●用排水幹線改良事業工事着手竝完了届ニ関スル件

昭和十年十二月十九日附十農局第三八八〇号農務局長ヨリ
各府縣知事宛通牒（和歌山、沖縄、鹿児島ヲ除ク）

貴縣営用排水幹線改良事業ニシテ工事ニ着手シ又ハ完了ヲ告ケタルモノニ付テハ補助要項第六項ニ依リ其ノ旨届出ツヘキ規定ナルニモ不拘往々其ノ手續ヲ遅滞スル向有之為ニ事務處理上支障不尠候條未タ届出無之モノニ付テハ御再調ノ上至急提出相成度尚爾今右手續ヲ怠ラサル様御留意相成度為念此段及通牒候也

●用排水幹線改良事業進捗方ニ関スル件

（昭和十二年六月二十一日附耕地課長ヨリ
各府縣耕地課長宛）

貴縣（府）営用排水幹線改良事業トシテ目下施行中ノ事業ニ付テハ事業年度割區分ニ基キ豫定ノ如ク進捗中ノ事ト存居候處往々ニシテ事業遅々トシテ進捗セス年度割ノ全部又ハ大部分ヲ次年度ニ繰越施行スルモノアリ如斯ハ本事業奨励上甚遺憾ノ次第ニ付此際一層事業ノ進捗方ニ付一段ノ努力ヲ拂ハレ上記ノ如キ不結果ヲ生セサル様格別ノ御配意相成度就テハ自今事業ノ進捗狀況ヲ別記様式ニ依リ四月ヨリ六月迄ノ分ヲ七月十日迄ニ七月以降三ケ月分ヲヲ取纏メ其翌月十日迄ニ相違ナク當課ニ到達スル様御報告相成度此段及照會候也

別記

何々　用排水幹線改良事業進捗狀況（自　月　至　月三ケ月）

一、事業年度割區分

工種	年度豫定	自月至月出来高	自月至月出来高累計	月以降年度内出来高見込
築堤				

水路		
樋門		
何々		

二、事業費年度割豫算

費目	年度豫算	自　月 至　月 支出額	自　月 至　月 支出額累計	月以降年度内 支出見込額
工事費				
用地買收費				
補償費				
事務費				
計				

三、地元負担金又ハ寄附金ノ納入状況

年度調定額	自　月 至　月 納入済額	自　月 至　月 納入済額累計	月以降年度内 納入見込額

四、事業進捗上影響ヲ及ホスカ如キモノアラハ其ノ事項及其ノ他注意スヘキ事項

用排水幹線改良事業ノ施行ニ関スル件

（大正一四・七・一発甲第一九号内務省土木局長ヨリ地方長官宛通牒）

府縣ニ於テ國庫補助ヲ受ケ用排水幹線改良事業ヲ施行セラルル場合其ノ工事カ現ニ府縣費支辨ニ屬セサル河川ニ関スル工事トナルヘキハ明治十一年七月太政官無號達第十二ニ基キ定メラレタル河川ニ関スル費用ノ負担所屬ヲ変更シ府縣支辨河川ニ編入ヲ要スル義ニ有之且其ノ編入ニ付テハ大正十一年五月内務省訓令第六號第四條ニ依リ特ニ指定シタルモノヲ除クノ外同條ノ規定ニ依リ認可ヲ要スヘキ筋合ニ候處往々右手續ヲ履行スルコトナク工事ヲ施行セラルル向モ有之候ニ付爲念

追テ右工事完了後其ノ河川ノ維持修繕ヲ市町村ヲシテ爲サシムルヲ適當トスル場合ニハ更ニ市町村費支辨ニ移管方詮議相成候ハ支障無之候

河川改良工事ノ施行ニ関スル件

（昭和二五・九発甲第一三号内務省土木局長ヨリ各地方長官宛通牒）

河川法ヲ施行若ハ準用スル河川ヘ附屬物ヲ含ム）ノ全部又ハ一部ニ付大体ニ渉ル一定ノ計

晝ニ基キ施行スル改良工事ハ用排水幹線改良事業ノ名ニ於テスルト否トヲ問ハス總テ河川行政監督令第二條ノ規定ニ依リ當省大臣ノ認可ヲ要スル義ニ候處本件工事ノ施行ニ付大正十五年八月内務省令第四十三號中ニ認可ヲ必要トスル規定ナキ故ヲ以テ地方行政廳限リ處理シ得ルカ如ク解セラルル向モ有之哉ニ及開候得共右省令ハ河川行政監督令第二條第二項ニ依リ同條第一項第二號後段及第三號ノ規定ノ範圍ヲ明確ナラシムル爲定メラレタルモノニシテ既ニ勅令ノ規定ニ依リ其ノ範圍ノ明カナル本件工事ニ付テハ省令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スノ必要ナカリシ義ニ候條御了知相成度爲念

追テ本文以外ノ河川ニ付テハ大正十一年五月内務省訓令第六號第一條ノ規定ニ依ルコト勿論ノ義ニ付併テ御含置相成度

●河川ニ關スル事務ト用排水幹線改良事業助成事務トノ權限整備ニ關スル件

（昭和三、一、二六發土第六八號内務省土木局長ヨリ府縣知事宛通牒）

當省所管ニ關スル河川ニ關スル事務ト農林省所管ニ屬スル用排水幹線改良事業助成事務トノ間ノ權限整備ニ付今般別紙ノ通決定相成候處河川行政監督ニ關シテハ何等從前ト異ル所無之從テ府縣ニ於テ用排水幹線改良事業トシテ河川ニ關スル工事ヲ施行スルトキハ河川管

理官廳タル國ノ知事ヨリ河川管理上必要ナル許可條件案ヲ具シ稟伺ヲ要スル義ニ付御含置相成度

農林省所管用排水幹線ノ改良事業助成事務ト内務所管ノ河川ニ關スル事務トノ間ノ權限整備ニ付テハ用排水幹線ノ改良事業助成事務ハ農林省所管トスルモ河川ニ重大ナル影響アルモノニ付テハ内務省ニ合議スルモノトシテ其ノ合議スヘキ場合ノ具体的標準ハ両省ニ於テ豫メ協議シ置クコト（昭和三、一閣議決定）

農林省カ將來用排水幹線改良事業ニ對シ補助ヲ與ヘントスル場合ニ於テハ施行河川及準用河川ニ關スル限リ内務省ニ合議スルコト

梯川及小鮎川ニ對シテハ補助ノ指令ヲ取消シ内務省ニ於テ河川改良事業トシテ讃算ヲ要求シ其ノ実施ヲナスコト

右ニ川以外既ニ補助指令済ノモノニ就テハ内務省ニ於テ速カニ工事施行認可ヲナスコト

（昭和三、一二政務次官會議決定）

●河川ニ關スル事務ト用排水幹線改良事業助成事務トノ權限整備ニ關スル件

（昭和四、四、五發甲第一二號内務省土木局長ヨリ府縣知事宛通牒）

標記ヲ件ニ關スル閣議決定並ニ之ニ伴フ内務農林両省合議事項ノ協定ニ付テハ本年一月十

六日付土発第六八號ヲ以テ及御通牒置候處爾今府縣ニ於テ河川法施行河川及同準用河川ノ改良事業ヲ用排水幹線改良事業トシテ施行セラルル場合其ノ河川カ全ク農業水利ノ爲ニスル用排水路タルノ實ヲ有シ且其ノ目的モ亦眞ニ農業水利ノ改良ヲ行フ事業ニ限リ當省ニ於テハ農林省ノ合議ニ對シ同意スルコトニ省議決定相成居候條右御含ノ上事業計畫相成度

● 公共團体ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律

（法律第二號 明治四十四年二月二十四日）

公共團体ノ經營ニ係ル工事ニ對シ國庫ヨリ其ノ經費ヲ補助スル場合ニ於テハ該補助費ノ各年度豫算殘額ハ工事ノ完成ニ至ル迄順次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

（參照）

朝　鮮（大正七年九月十九日勅令第三百五十号ヲ以テ施行）

臺　灣（昭和二年三月十七日勅令第三十一号ヲ以テ同日ヨリ施行）

第三　暗渠排水、床締及客土事業

● 暗渠排水奬励ニ關スル件（昭和七年七月十九日附農第一三六〇五號 農林次官ヨリ各地方長官宛通牒）

排水不良耕地改良ニ關シテハ從來之カ奬励ヲ爲シ來レルモ猶暗渠排水工事ヲ施スヲ適切有利ナリトスルモノ頗ル多シト被認依テ之カ促進ヲ圖ル爲今年度ヨリ新ニ暗渠排水工事費補助金ヲ計上シテ補助金ヲ交付スルコトト相成候ニ付テハ左記要項ニ依リ相當計畫ヲ樹テ奬励相成候樣致度此段及通牒候也

追テ國庫補助金ノ交付ニ付テハ地方長官ニ其ノ支拂ヲ委任相成候條御了知相成度

記

暗渠排水工事補助要項

一　補助金ハ施行地積五反歩以上ノ耕地（最低標準地積ヲ五反歩トスルモ地方ノ事情ニ依リ第三項（ロ）號ノ規程ヲ以テ低下スルコトヲ妨ケス）ノ暗渠排水工事ニ對シ交付スル

道府縣ノ助成金ニ對シ每年度豫算ノ範圍内ニ於テ道府縣ニ之ヲ交付ス

二　補助金ハ工事費ノ十分ノ三ニ相當スル金額トス

三　補助金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ毎年三月末日（昭和七年度ハ九月三十日）迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

（イ）　様式第一號ニ依ル助成豫定書

（ロ）　助成金交付ニ関スル規程

四　補助金交付ノ許可ヲ受ケタル道府縣前項ノ助成豫定書又ハ助成金交付ニ関スル規程ヲ変更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

五　補助金交付ノ許可ヲ受ケタル道府縣ハ補助金交付請求書ニ様式第二號ニ依ル事業成績書及様式第三號ニ依ル決算書ヲ添ヘ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

六　農林大臣ハ必要アリト認ムルトキハ補助金交付ノ許可ヲ受ケタル道府縣ニ対シ何時ニテモ其ノ事業ニ関スル報告ヲナサシメ書類、帳簿又ハ事業施行ノ状況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ為スコトアルヘシ

七　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ補助金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

（イ）　本要項ノ規定ニ違反シタルトキ

（ロ）　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

（ハ）　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

（様式略）

●暗渠排水奨励ニ関スル件

（昭和七年九月十二日附農第一七六六二號農林次官ヨリ各地方長官宛通牒）

標記ノ件ニ関シ昭和七年七月十九日附農第一三六〇五號ヲ以テ通牒候處今般同通牒中暗渠排水補助要項ハ左記ノ通之ヲ改メ昭和七年七月十九日附農第一三六〇六號農務局長通牒ハ之ヲ廃止候ニ付テハ右ニ依リ相當處理相成度依命此段及通牒候也

記

暗渠排水工事補助要項

一　補助金ハ施行地積五反歩以上ノ耕地（最低標準地積ヲ五反歩トスルモ地方ノ事情ニ依リ第四項（ロ）號ノ規程ヲ以テ低下スルコトヲ妨ケス）ノ暗渠排水工事ニ対シ交付スル道府縣ノ助成金ニ対シ毎年度豫算ノ範囲内ニ於テ道府縣ニ之ヲ交付ス

二　補助金ハ工事費ノ十分ノ五ニ相當スル金額トス

三　前項ノ工事費ニハ工事ノ為支出シタル一切ノ金額（夫役現品ノ換算金額ヲ含ム）中

ヨリ工事監督費、事務費ノ類ハ之ヲ算入セサルモノトス

四　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル道府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ前年度二月末日ヘ昭和七年度ハ昭和七年九月三十日）迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ但シ（ロ）ニ掲ケル書類ニ付テハ既ニ提出シタルモノニ変更ナキトキハ之ヲ添附スルヲ要セス

（イ）　様式第一號ニ依ル助成豫定書

（ロ）　助成金交付ニ関スル規程

五　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣前項ノ助成豫定書又ハ助成金交付ニ関スル規程ヲ変更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

六　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ様式第二號及第三號ニ依リ當該年度ニ於ケル事業成績書及助成金決算書ヲ翌年度六月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

七　農林大臣ハ必要アリト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ニ對シ何時ニテモ其ノ事業ニ関スル報告ヲ為サシメ書類、帳簿又ハ事業施行ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ為スコトアルヘシ

八　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

（イ）本要項ノ規定ニ違反シタルトキ

（ロ）補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

（ハ）事業ノ成績不良ト認メタルトキ

（ニ）決算額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

様式

第一號

昭和何年度暗渠排水助成豫定書

地區名	施行地積	工事要領	工事費豫算	道府縣助成金予算額	同上中國庫補助額	備考
、、、			工事費算出ノ基礎説明			
、、、						
、、、						
、、、						
計						

注意

工事要領欄ニハ耕地ノ現況及設計ノ大要ヲ記載スルコト

第二號

昭和何年度暗渠排水助成事業成績書

地區名	施行豫定地積	工事終了地積	工事施行ノ狀況	備考
、、、、				
、、、、				
、、、、				
、、、、				
計				

注意

豫定地積ノ終了セサルモノニ付テハ其ノ事由ヲ備考欄ニ於テ説明スルコト

第三號

昭和何年度暗渠排水助成金決算書

地區名	工事費豫算額	工事費支出額	道府縣助成金交付額	同上中國庫補助額	備考
、、、、					

、、、、			
、、、、			
計			

注意

一　工事費支出額欄ニハ道府縣助成金交付額決定ノ基礎トナリタル工事費支出額ヲ記載シ且其ノ査定ノ内容ヲ備考欄ニ於テ説明スルコト

二　豫定ノ工事費ヲ支出セサルモノニ付テハ其ノ事由ヲ備考欄ニ於テ説明スルコト

●暗渠排水補助要項中改正ノ件

（昭和十二年五月二十八日附一二農第六六三六号農務局長ヨリ各地方長官宛通牒）

昭和七年九月十二日附農第一七六六二號農林次官依命通牒暗渠排水工事補助要項中左記ノ通リ改正シ本年度分補助金ヨリ施行相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

記

第二項中「十分ノ三」ヲ「十分ノ四」ニ改ム

● 暗渠排水補助要項中改正ノ件

（昭和十一年七月三日附一一農第七六六八號農務局長ヨリ各地方長官宛通牒）

昭和七年九月十二日附農第一七六六二號農林次官依命通牒暗渠排水工事補助要項中左記ノ通改正シ本年度分補助金ヨリ施行相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

記

第二項中「十分ノ五」ヲ「十分ノ三」ニ改ム

● 暗渠排水、床締及客土事業補助要項ニ関スル件

（昭和十二年七月二十一日附一二農第九四三一号農務局長ヨリ各地方長官宛）

排水不良耕地ノ改良ニ関シ暗渠排水工事ヲ施行スルヲ有效適切ナリトスルモノニ對シテハ昭和七年度以降特ニ之カ奬励ヲ為シ来リ候處近時頻発スル冷害防止ノ為之カ事業ノ促進ヲ図ルト共ニ滲透水甚シキ粗悪田或ハ耕土寡少ノ為災害ヲ被ルモノ等ニ對シ床締、客土事業

ノ実行ヲ必要ト認メラレ候ニ付テハ此等事業ヲ奬励スル為今般新ニ経費ヲ計上シ左記暗渠排水、床締及客土事業補助要項ニ依リ補助金ヲ交付スルコト、相成候條可然御配慮相成度依命此段及通牒候也

記

暗渠排水、床締及客土事業補助要項

第一　補助金ハ左ニ掲ク費用又ハ補助金ニ對シ毎年度豫算ノ範囲内ニ於テ道府縣ニ之ヲ交付ス但シ別ニ國庫ヨリ奬励金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　道府縣ノ行フ耕地ノ暗渠排水、床締又ハ客土事業ニ要スル費用

二　市町村、耕地整理組合其ノ他ノ團体ノ行フ耕地ノ暗渠排水、床締又ハ客土事業ニ要スル費用ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

三　耕地ノ暗渠排水、床締又ハ客土事業ノ調査設計、指導監督其ノ他事業補助ノ為ニ要スル道府縣ノ費用

農林大臣特別ノ事情アリト認ムル道府縣ニ於テハ補助金ハ前項ノ費用又ハ補助金ニ對スルモノノ外個人ノ行フ耕地ノ暗渠排水、床締又ハ客土事業ニ要スル費用ニ對シ交付

スル道府縣ノ補助金ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第二　補助金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス

一　第一第一項第一號ノ補助金ニ對スルモノニ在リテハ各事業ニ要スル費用ノ五分ノ二

二　第一第一項第三號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ二分ノ一

三　第一第二項ノ補助金ニ對スルモノニ在リテハ事業ニ要スル費用中ヨリ工事監督費、事務費ノ類ヲ除キタル工事費ノ五分ノ二

第三　補助金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シ前年度ニ月末日（昭和十二年度ニ限リ八月三十一日）迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

一　第一第一項第一號ノ費用ニ對スル補助金ニ付テハ豫算書及樣式第一號ニ依ル事業計畫書

二　第一第一項第二號及第一第二項ノ補助金ニ對スル補助金ニ付テハ豫算書、樣式第二號ニ依ル補助金交付豫定書竝ニ補助及監督ニ關スル規程

三　第一第一項第三號ノ費用ニ對スル補助金ニ付テハ豫算書及樣式第三號ニ依ル計畫書

第四　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣第三各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ變更ヲ加ヘント

スルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五　道府縣ノ補助金ハ實地檢査ヲ爲シタル後支出精算額ノ範圍内ニ於テ之ヲ交付スヘシ

但シ工事出來形歩合ニ應スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣不正ノ手段ニ依リ道府縣ノ補助金ノ交付ヲ受ケタル者アルコトヲ認知シタルトキハ其ノ處分ニ付遲滯ナク農林大臣ノ指示ヲ請フヘシ

第七　第一第一項第一號ノ費用ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣其ノ事業ニ着手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スヘシ之ヲ完了シタルトキ亦同シ

第八　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ第一第一項第一號ノ費用ニ對シ交付ヲ受ケタル場合ニ在リテハ事業費支出決算書及事業實施成績書ヲ、第一第一項第二號及第一第二項ノ補助金ニ對シ交付ヲ受ケタル場合ニ在リテハ樣式第四號ニ依ル補助金交付決算書及樣式第五號ニ依ル補助事業成績書ヲ、第一第一項第三號ノ費用ニ對シ交付ヲ受ケタル場合ニ在リテハ樣式第六號ニ依ル費用決算書ヲ翌年度六月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第九　道府縣ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケテ支出シタル費用又ハ補助金ヲ返納セシメ之ヲ歲入ニ組入レタルトキハ事由ヲ具シ遲滯ナク農林大臣ニ報告スヘシ

第十　道府縣ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケタル費用又ハ補助金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出ス

ルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スル義務アルモノトス

第十一　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一　本要項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業ノ成績不良ト認メタルトキ

四　豫算額ニ比シ支出額カ減少シタルトキ

様式第一號

事業計畫書

一　計畫地域ノ現況

二　事業ノ目的及計畫説明

三　工事ノ仕様

四　工事ヲ施行スヘキ地區ノ地目別ノ面積

五　工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

六　計畫地域ノ現形及豫定平面圖

七　縦横断面圖及構造圖

八　事業ノ開始及終了ノ豫定時期

九　事業費豫算内訳書

様式第二號

補助金交付豫定書

(イ)　暗渠排水

地區名	施行地積	事業又ハ工事要領	事業費又ハ工事費予算額	道府縣補助金予算額	同上中國庫補助金額	備考
○○○○○			円	円	円	
計						

(四) 床締

地區名	施行地積	事業又ハ工事要領	事業費又ハ工事費予算額	道府縣補助金予算額	同上中國庫補助金額	備考
				円	円	
計						

(八) 客土

地區名	施行地積	事業又ハ工事要領	事業費又ハ工事費予算額	道府縣補助金予算額	同上中國庫補助金額	備考
○○○○○				円	円	
計						

注意

事業又ハ工事要領欄ニハ耕地ノ現況及設計ノ大要並ニ事業費又ハ工事費ノ明細ヲ記載スルコト

様式第三號

調査設計、指導監督其ノ他事業補助計畫書

費目	備考
國庫補助金	
豫算額	
俸給 円	
旅費	
何々	
何々	
計	
技師一人	何人分 円ノ二分ノ一補助
主事補一人	何人分 円同
技手一人	何人分 円同
何々	何人分 円同

職員ノ配置左ノ如シ

區分	施行豫定	職員數		備考
		班ノ組織及班數		
幹部竝展務				
調査設計				
工事監督事務指導				
計				

附記

一　各事項ニ依リ職員分担員数、行程等記載スルコト

二　事業補助ノ計畫書ニ付テモ右ニ準シ作成スルコト

様式第四號

昭和　年度補助金交付決算書

(イ)　暗渠排水

(ロ)　床締

地區名	事業費又ハ工事費豫算額	道府縣補助金交付額	同上中國庫補助金額	備考
○○○○○○	円	円	円	
計				

地區名	事業費又ハ工事費豫算額	事業費又ハ工事費支出額	道府縣補助金交付額	同上中國庫補助金額	備考
○○○○○○	円	円	円	円	
計					

(ハ) 客土

地區名	事業費又ハ工事費豫算額	道府縣補助金交付額	同上中國庫補助金額	備考
○○○○○○	円	円	円	
計				

注意

事業費又ハ工事費支出額欄ニハ道府縣補助金交付額決定ノ基礎トナリタル事業費又ハ工事費支出額ヲ記載シ且査定額ヲ朱書傍記シ其ノ査定ノ内容ヲ備考欄ニ於テ說明スルコト

様式第五號

(イ) 暗渠排水

昭和　年度補助事業成績書

地區名	施行豫定地積	工事終了地積	工事施行ノ狀況	就勞延人員	同上ニ對スル賃金	備考
○○○○○○					円	
計						

(ロ) 床締

地區名	施行豫定地積	工事終了地積	工事施行ノ狀況	就勞延人員	同上ニ對スル賃金	備考
○○○○○○					円	
計						

(ハ) 客土

地區名	施行豫定地積	工事終了地積	工事施行ノ狀況	就勞延人員	同上ニ對スル賃金	備考
○○○○○○○○						
計					円	

注意　工事施行ノ狀況欄ニハ工事施行ノ時期、方法及使用材料ノ種類、數量等ニ關シ簡明ニ記載スルコト

様式第六號

昭和　年度費用決算書

費目	國庫補助金豫算額	決算額	殘額	備考
俸給・賃	円	円	円	
旅費				
何々費				
何々費				
計				

附記

各費目別ニ明細書ヲ添附スルコト

暗渠排水、床締及客土事業補助要項ニヨル道府縣營事業ノ事業費支出決算書及事業實施成績書ノ様式ニ關スル件

（昭和十三年六月十七日附耕地課長ヨリ岩手縣外八縣耕地課長宛）

昭和十二年七月二十一日附十二農第九四三一號農務局長依命通牒ニヨル暗渠排水、床締及客土事業補助要項ニヨリ行フ第一第一項第一號ノ事業ニ關シテハ別紙様式ニヨル事業費支出決算書及事業實施成績書ヲ添附相成度

○○地區暗渠排水事業実施成績書並ニ支出決算書

昭和　年度○○地區事業実施成績書

一、工事ノ方法及狀況

二、竣工程度

三、工事施行後ノ效果

四、就勞ノ狀況

(イ)　就勞ノ概要

(ロ)　就勞人員並ニ賃金

費目	施行歩合 本年度	施行歩合 残	就労延人員 本年度	就労延人員 残見込	同上ニ對スル賃金 本年度	同上ニ對スル賃金 残見込	備考
計			人	人	円	円	

附記

補助調書トシテ各月別ノモノヲ調製シ置クコト

五、其ノ他重要ナル事項

第一表

昭和　年度○○地區事業費支出決算書

事業費支出決算書

第二表

工事費支出決算明細書

費目	昭和　年度予算額	昭和　年度決算額	差引増減	摘要
	円	円	円	
工事費				
事務費				
何々				
計				

第三表

種目別出来形調書

種目	数量	豫算額	決算額	差引増減	摘要
○○管購入費		円	円	円	
〃					
〃					
〃					
人夫賃					
雑費					
計					

種目	数量	金額	摘要
		円	

備考

一、豫算明細書ト出来形ト一致セサル場合ハ別ニ豫算明細書ニ準シタル出来形ノ明細書ヲ提出ノコト但シ豫算ト出来形ト一致セル場合ハ豫算明細書ヲ以テ出来形明細書ニ代フルコトヲ得

二、請負ノ場合ハ金額欄ニ豫算額ヲ記入ノコト

三、工事出来形一覧図ヲ添附スルコト

第四表

請負調書

種目	豫算額	請負金額	出来形ニ對スル豫算		支拂金額		摘要
			前年度	本年度	前年度	本年度	
		円	円	円	円	円	
		円	円				
計							

備考

表中本年度ハ其ノ年度名ヲ記載スルコト

第五表

土地買收支出決算明細書

種目	面積	豫算額	決算額	差引増減	摘要
		円	円	円	
計					

第六表

土地買收調書

町村名	地番	地目	面積	單價	金額	賣渡人名	摘要
				円	円		
計							

第七表

補償費支出決算明細書

種目	數量	豫算額	支出決算額	差引増減	摘要
農作物損害		円	円	円	
〃					
〃					
〃					
計					

第八表

補償費調書

第九表

事務費支出明細書

町村名	地番	種目	数量	単価	金額	受補償人名	摘要
				円	円		
計							

種目	数量	積算額	決算額	差引増減	摘要
俸給	人	円	円	円	
旅費	件				
備品	品				
〃					
雑費					

第十表

事務費種目別明細書

(イ) 俸給

種類	氏名	数量	単価	金額	摘要
		月	円	円	
技師給					
主事補給					
技手給					
〃					
計					

(ロ) 旅費

(イ) ニ準スルコト

(ハ) 〃

計						

● 暗渠排水、床締及客土事業補助要項第一號ノ補助ヲ受ケ床締用機械類（牽曳機、ハロー、ローラー等）ヲ購入セル縣ニ對シテハ別記ノ如キ通牒ヲ発セリ

昭和十三年度暗渠排水、床締及客土事業補助金交付ノ件

（昭和十三年十二月二十日附一三農第一二九四八号農務局長ヨリ宮城縣知事宛）

昭和十三年十月二十九日附耕第一七九三號申請標記ノ件今般別紙ノ通指令相成候處貴縣ニ於テ本事業費ヲ以テ購入ノ機械類ヲ本事業以外ニ使用セントスルトキハ今後五箇年間ハ左記各項ヲ具シ諒メ打合セラレ度此段及通牒候也

記

一、使用ノ場所
二、使用ノ目的
三、事業施行及機械使用地積

四、事業及機械使用ノ始期、終期
五、事業費及機械使用經費收支内訳

第四　農用公共施設改良事業

● 農用公共施設新設改良事業補助ニ關スル件

（昭和十二年七月二十四日附一三農第九五六七號農務局長ヨリ各地方長官宛依命通牒）

近時災害ノ頻發ニ鑑ミ之カ被害ヲ未然ニ防止スルノ趣旨ヲ以テ溜池、井堰、水路路等ノ農用公共施設ノ新設改良事業ヲ奨励スル爲今般新ニ經費ヲ計上シ左記農用公共施設新設改良事業補助要項ニ依リ補助金ヲ交付スルコトト相成候ニ付テハ可然御配慮相成度依命此段及通牒候也

農用公共施設新設改良事業補助要項

第一　補助金ハ五百町歩未満ノ耕地ヲ支配スル溜池、井堰、水路等ノ農用公共施設ノ新設改良事業ニ関スル左ニ掲クル費用又ハ補助金ニ対シ毎年度豫算ノ範囲内ニ於テ道府縣ニ之ヲ交付ス但シ別ニ國庫ヨリ奨励金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　道府縣ノ行フ農用公共施設新設改良事業ニ要スル費用

二　市町村、水利組合、耕地整理組合其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル者ノ行フ農用公共施設新設改良事業ニ要スル費用ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

三　農用公共施設新設改良事業ノ調査設計、指導監督等ニ要スル道府縣ノ費用

第二　補助金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス

一　第一第一號ノ費用及第二號ノ補助金ニ對スルモノニ在リテハ各事業ニ要スル費用ノ五分ノ二

二　第一第三號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ二分ノ一

第三　補助金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シ前年度二月末日（昭和十二年度ニ限リ八月三十一日）迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

一　第一第一號ノ費用ニ對スル補助金ニ付テハ豫算書、様式第一號ニ依ル事業計畫書及様式第二號ニ依ル事業実施豫定書

二　第一第二號ノ補助金ニ對スル補助金ニ付テハ豫算書、様式第三號ニ依ル補助金交付豫定書並ニ補助及監督ニ関スル規程

三　第一第三號ノ費用ニ對スル補助金ニ付テハ豫算書及様式第四號ニ依ル計畫書

第四　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣第三各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ変更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五　道府縣ノ補助金ハ実地検査ヲ為シタル後支出精算額ノ範囲内ニ於テ之ヲ交付スヘシ但シ工事出来形歩合ニ應スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣不正ノ手段ニ依リ道府縣ノ補助金ノ交付ヲ受ケタル者アルコトヲ認知シタルトキハ其ノ處分ニ付遅滞ナク農林大臣ノ指示ヲ請フヘシ

第七　第一第一號ノ費用ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣其ノ事業ニ着手シタルトキハ遅滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スヘシ之ヲ完了シタルトキ亦同シ

第八　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ第一第一號ノ費用ニ對シ交付ヲ受ケタル場合ニ在リテハ事業費支出決算書及事業実施成績書ヲ、第一第二號ノ補助金ニ對シ交付ヲ受ケタ

ル場合ニ在リテハ様式第五號ニ依ル補助金交付決算書及様式第六號ニ依ル補助事業成績書ヲ、第一第三號ノ費用ニ對シ交付ヲ受ケタル場合ニ在リテハ様式第七號ニ依ル費用決算書ヲ翌年度六月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第九　道府縣ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケテ支出シタル費用又ハ補助金ヲ返納セシメ之ヲ歳入ニ組入レタルトキハ事由ヲ具シ遅滞ナク農林大臣ニ報告スヘシ

第十　道府縣ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケタル費用又ハ補助金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ残額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スル義務アルモノトス

第十一　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一　本要項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業ノ成績不良ト認メタルトキ

四　豫算額ニ比シ支出額カ減少シタルトキ

様式第一號

事業計畫書

一　計畫地域ノ狀況

二　事業ノ目的及計畫説明

三　工事ノ仕様

四　工事施行ニ依リテ利益ヲ受クヘキ土地ノ市町村別及地目別面積

五　工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

六　計畫地域ノ現形及豫定図

七　縦横断面図及構造図

八　事業ノ開始及終了豫定時期

九　事業豫算内譯書

様式第二號

事業實施豫定書

地區名	目的	工種別	數量	關係面積	事業費	全上負担區分			備考
						國庫負担	道府縣負担	地元負担	
何々地區	旱害	溜池	箇所	町	円	円	円	円	
		水路	間						
		何々							
何々地區	水害	溜池	箇所	町					
		水路	間						
		何々							
何々地區	何々	溜池	箇所	町					
		水路	間						
		何々							
計									

様式第三號

補助金交付豫定書

事業主体	地區名	目的	工種別	數量	關係面積	事業費	道府縣補助金予算額	全上負担區分		備考
								國庫負担	道府縣負担	
	何々地區	旱害	溜池	箇所	町	円	円	円	円	
			水路	間						
			何々							
	何々地區	水害	溜池	箇所	町					
			水路	間						
			何々							
	何々地區	何々	溜池	箇所	町					
			水路	間						
			何々							
計										

附記

各事業地區毎ノ様式第一號ニ準スル事業計畫書ヲ添附スルコト但シ事業費カ二萬円未滿ナルモノニ付テハ添附ヲ要セス

様式第四號

調査設計、指導監督計畫書

費目	國庫補助金	豫算額	備考
俸給	円	円	
旅費			
何々			
計			

職員ノ配置左ノ如シ

區分	施行豫定	職員數	備考
幹部竝庶務		班ノ組織及班數	
		何々○○○何人分○○円ノ二分ノ一補助	

様式第五號

昭和　年度補助金交付決算書

調査設計		
工事監督指導		
計		

地區名	事業費豫算額	事業費決算額	補助金交付額	同上負担區分
				國庫補助金
				道府縣負担
計				

様式第六號

昭和　年度補助事業成績書

事業主体	地區名	工種	施行数量	同上中終了数量	同上成功地積	就労延人員	同上ニ對スル賃銀	備考
	何々地區	溜池	箇所	箇所	町			
		水路	間	間				
		何々						
	何々地區	溜池	箇所	箇所	町			
		水路	間	間				
		何々						
計		溜池	箇所	箇所	町			
		水路	間	間				
		何々						

様式第七號

昭和　年度費用決算書

費目	國庫補助金	豫算額	決算額	残額	備考
俸給	円	円	円	円	
旅費					
何々					
何々					
計					

附記

各費目別ヲ支出明細書ヲ添附スルコト

第五　河水統制調査

●河水統制調査ニ関スル件（昭和十二年七月七日附耕地課長ヨリ岩手縣外十二府縣耕地課長宛）

近時文化ノ進展ニ伴ヒ水ノ需用頓ニ増加シ往々紛争ヲ惹起スルノミナラス諸般ノ調査計畫上不便勘カラサルヲ以テ茲ニ内務、遞信、農林ノ関係各省相協調シ夫々調査ニ着手スルコトト相成シコトハ既ニ御承知ノ事ト存候處本年度ハ其ノ第一着手トシテ決定セル六十四河川ニ付各省主管ニ属スル調査計畫ヲナスモノニ有之候然シテ之レカ調査ノ結果ハ將来ニ於ケル農業水利上ノ各種計畫ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ特ニ本調査ニ御留意ノ上御協力相成度別紙調査事項送附致シ参考ニ供シ候

本調査計畫ニ洩レタル水ヲ要スル事業ニ付テ將来ノ実行ニハ水源ヲ得ルニ尠カラサル困難ヲ生シ或ハ既得水利權ヲ有スルモノノ水量調査ニ誤レル場合ハ亦重大ナル事態ヲ惹起スルコトナキヲ保シ難ク存候仍テ此段為念申進候也

河水統制調査事項

第一、河水ノ現況ニ関スル調査

一、河水ノ性狀及流域

(一)　河水ノ性狀　延長、断面、勾配、河狀、水位、流量、狀流水、水質、水温等

(二)　流域　面積、地勢、地貌、地質等

二、氣象調査　氣象概況　水系内測候所竝ニ観測所ノ観測記錄

三、経済調査

(一)　概況　水系内ノ一般経済狀況竝ニ交通運輸狀況等

(二)　農業関係　農業戸口、耕地面積、耕地ノ生産力、耕地價格、自小作関係、利用狀況、農業收益、労力等

(三)　林業関係　所有関係、林況、蓄積、施業法、伐採量、林業労働者及其ノ生活狀態等

(四)　漁業関係　漁業戸口、漁業者ノ生活狀態、河口海面ニ於ケル漁業ノ狀況等

四、利用ノ狀況

(一) 灌漑排水　取入口、取入水量及其ノ過不足ノ狀況、排水口排水量及其ノ良否、關係面積、權利關係等

(二) 木材流送　流材方法、流材施設、流材ノ時期及流材量、流材ニ要スル費用、流水量、權利關係等

(三) 漁　業　水族ノ狀況、漁獲狀況、權利關係等

(四) 發電水利　許可水力地点及發電要領等

(五) 其ノ他　上水道、鑛工業用排水、水運、都市排水等

五、治山治水　既往ノ水害狀況、治山治水施設等

第二、河川ニ關スル諸計畫ノ概要

一、利用ニ關スル計畫

(一) 灌漑排水　農業用水源開發ニ關スル計畫、農業水利改良計畫、土地利用計畫等

(二) 木材流送　流材路及流材施設改良計畫、流材ニ代ルヘキ施設計畫等

(三) 漁　業　水族繁殖保護計畫、漁業開發計畫等

(四) 發電水利　未開發發電計畫

(五) 其ノ他

二、治山治水ニ關スル計畫　直轄河川、中小河川ニ於ケル治水計畫、森林治水事業計畫、水源林整備計畫等

第三、河水統制計畫

一、一般計畫

二、各種計畫

(一) 利用ニ關スル計畫

(イ) 灌漑排水

(ロ) 木材流送

(ハ) 漁　業

(ニ) 發電水利

(ホ) 其ノ他

(二) 治山治水ニ關スル計畫

第六　其ノ他

●農業水利ト農業水利以外ノ目的ヲ以テスル水ノ使用トノ調和ニ関スル件（大正七年一月十九日附農第五五四號農務局長ヨリ各地方長官宛通牒）

耕地ノ擴張及改良ハ農産増殖ノ根本方策ニ有之水利ノ関係ハ其ノ実行上最緊切ノ事項ニ属スルモノナルコト言ヲ俟タサル所ニ有之候處從来水力工業、水道、水産業等農業以外ノ目的ニ向テ河川湖沼ノ水ノ使用ヲ許可セラレ一面用水ノ関係上耕地擴張改良ノ不能又ハ困難トナリタル為農業上支障ヲ来セル例尠ナカラス今後各種企業益々発展ヲ要シ農業上ニ於テハ特ニ耕地拡張ヲ奨励スルノ必要アルニ際シ日ヲ追テ此ノ問題ヲ滋クスルノ傾向有之様被存候ヘハ之レカ調和ノ方法ヲ講スルコト頗ル肝要ト被存候実際ニ於テ用水取入レ口ノ選定、利用ノ場所、水量ノ分配其ノ他ノ点ニ付計畫設計上慎重ノ考慮ヲ加ヘ候ハハ互譲調和ノ道ヲ求メ得ル箇所モ尠ナカラサルヘク現ニ地方ニ依リ土木、農務両方面ノ協議ニ基キ調和ノ實ヲ挙ケツツアルモアリ又水利上ノ許可ヲ與フルニ當リ将来農業用水ニ支障ヲ生スルコトナキ様相當ノ制限又ハ條件ヲ附スル様適宜緩和ノ手段ヲ講シツツアル向モ有之候要スルニ右ハ此後ニ於テ深ク注意ヲ要スル問題ト被存候ニ付相當方法ヲ設ケ遺漏ナキヲ期セラレ度

依命為念此段及通牒候也

記

●農地ノ利用関係ニ関スル爭議ノ報告ニ関スル件（昭和十四年二月十八日附一四農局第八三號農務局長ヨリ各地方長官宛通牒）

従来小作爭議ニ関シテハ其ノ都度農林大臣ニ申報相成居候處今般農地調整法ノ施行ニ伴ヒ同法第十三條ノ規定ニ依リ小作関係以外ノ農地ノ利用関係ニ関スル爭議ニ付テモ之カ解決ヲ図ラシメ以テ農村ノ平和ヲ維持シ農地ノ利用ヲ増進セシムルコトト相成候ニ付テハ小作爭議ト同様可及的速ニ之等爭議ノ発生ヲ知悉スルコトハ現下竝ニ将来ノ農政上極メテ緊要ノコトニ有之候條爲後此ノ種爭議ニ付テモ別紙様式ニ依リ御報告相成度此段及通牒候也

追テ昭和六年四月二十一日附農局第一三一二號通牒ニ依ル農業水利交渉事件報告ハ之ヲ廃止シ爲今主文ノ報告ヲ以テ之ニ代ヘラルル様致度尚重大ナル事件ニ関シテハ其ノ都度左記事項ヲ具シ詳細報告相成度爲念申添候

一、従来ノ慣行及之カ改善ニ関スル見込
一、施設ノ設置又ハ改善ノ要否及之ニ要スル費用
一、事件處理ニ関スル意見
一、関係區域略図

農地利用関係爭議（発生／経過／解決）報告表

昭和　年　月　日

道府縣名

爭議發生ノ場所		
爭議當事者	甲	
	乙	
甲ノ所屬團体名		
爭議ノ發生ヲ見ルニ至リシ事情		
發生年月日	昭和　年　月　日	
終結年月日	昭和　年　月　日	
爭議関係地種類及面積	田	
	畑	
乙ノ所屬團体名		

要求事項	甲	
	乙	
爭議ノ經過及結果		
解決條件		
備考		
附記	農業水利交渉事件ニ関シテハ水系等必要ナル事項ヲ記入スルコト	

●國庫ノ補助スル公共團体ノ事業ニ関スル件（明治三十年四月一日法律第三十七號）

第一條　府縣郡市區町村其ノ他公共團体ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ関シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理竝經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若クハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

第二條　前條ノ事業ニ関シ經費ノ負担ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條　此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條　府縣郡市區町村其ノ他公共團体ノ事業ニシテ國ノ事業ト関聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七　附錄

●河川臺帳令（抄）（明治二十九年十月十五日勅令第三百三十一號）

［改正］明治三十一年七月勅令第百六十七號、同三十二年六月第二百八十八號、大正十二年七月同第三百五十四號、昭和九年十月十八日同第三百七號

第一條　河川臺帳ハ帳簿及実測図ヲ以テ組成ス

第二條　河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ河川ノ狀況ニ依リ内務大臣ハ其ノ記載事項ヲ省略セシムルコトヲ得

一　河川ノ敷地及堤外地ノ區域

二　河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ホスヘキ工作物ノ種類、数量、構造及位置形狀

三　河川ニ影響ヲ及ホスヘキ水流及水面ノ種類、数量及位置形狀

第三條　府縣知事ハ其ノ調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市町村長ノ意見ヲ徴シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縱覽ニ供スヘシ但シ地方市町村ノ多数ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ縱覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ隣接スル市町村ニ限

リ併合縦覧セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利害関係者ハ縦覧期限経過後十五日以内ニ河川臺帳ニ對シ意見ヲ申立ツルコトヲ得

第七條　府縣知事ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ之ヲ保管スヘシ

府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縦覧ニ供スルノ方法ヲ設ケ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其ノ更正ヲ爲シタルトキ亦同シ

河川豫定地制限令（抄）（明治三十年十二月二十三日勅令第三百七十七號）

〔改正〕大正十五年八月勅令第二百八十九號、昭和九年十月同第三百二號

第三條　河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除去セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　工事、営業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可

ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條　此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ変更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　許可ノ後ニ起リタル事実ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ関スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スルタメニ必要ナルトキ

四　河川法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ遠反シタルトキ

六　公益ノタメ必要ナルトキ

河川法準用令（抄）（明治三十二年十月十四日勅令第四百四號）

〔改正〕昭和九年十月勅令第三百號

第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

河川堰堤規則（昭和十年五月二十七日内務省令第三十六號）

第一條 本令ニ於テ堰堤ト稱スルハ貯水又ハ取水ノ爲河川法ヲ施行又ハ準用スル河川、水流又ハ水面ニ設クル堰堤ニシテ基礎地盤ヨリ堤頂迄ノ高土堰堤ニ在リテハ十米以上其ノ他ノ堰堤ニ在リテハ十五米以上ノモノヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ許可ヲ受ケタル者ト稱スルハ堰堤ノ新築、改築又ハ除却ニ付河川法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承継人ヲ謂フ

第三條 堰堤ノ新築又ハ改築ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 計畫説明書（別記第一號様式）

二 工事費概算書

三 計算書（堰堤ノ安定及貯水池ノ容積ニ關スル計算其ノ他必要ナル水理計算）

四 降水量表（時量、四時間連續量、日量、月量及年量）

五 圖面

申請者名、題目、圖面番號（何枚ノ内第何號）及作成年月日ヲ記入シ圖面目録ヲ添附スヘシ

イ、一般平面圖

陸地測量部刊行五萬分ノ一圖ニ左ノ事項ヲ明示スヘシ

1 堰堤位置

2 集水區域

3 集水路

4 堰堤ニ因リ影響ヲ受クヘキ道路、橋梁、用悪水路其ノ他既設工作物ノ位置竝ニ流筏木及舟航ノ區域

ロ、貯水池豫測圖

ノ 平面圖

縮尺ハ五千分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ明示スヘシ但シ航空寫眞ヲ用フルモ妨ナシ

一　堰堤竝ニ附屬及附帶設備ノ位置
一　港水區域
一　測点
一　其ノ他參考トナルヘキ事項

2　縱斷面圖

縮尺ハ縱二百分ノ一橫五千分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ明示スヘシ

一　最低河床
一　堰堤位置
一　堰堤築造前後ノ各水位（水面勾配ヲ記入スルコト）
一　測点ノ番號及標高
一　測点間ノ距離及遞加距離
一　其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ明示スヘシ

3　橫斷面圖

縮尺ハ二百分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ明示スヘシ

一　地盤線
一　測点ノ番號及標高
一　堰堤築造前後ノ各水位

ハ　堰堤及主ナル附屬設備ノ設計図
ニ　水位流量曲線圖
ホ　流況曲線圖
ヘ　流量累加曲線圖
ト　堰堤築造豫定箇所ヲ其ノ上流及下流ヨリ撮影シタル寫眞ニ堰堤外型ノ輪廓ヲ明示シタルモノ

第四條　堰堤ノ新築又ハ改築ノ許可ヲ受ケタルトキハ左ノ書類及圖面ヲ添附シ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

一　實施計畫説明書（別記第二號樣式）
二　工事費豫算書
三　計算書
イ　堰堤ノ安定ニ關スル計算書（圖式計算法ニ依ルモ妨ナシ）
ロ　貯水池容積計算書

ハ　堰堤ニ因ル水ノ滞溜作用ヲ計算スルニ必要ナル水理計算書
ニ　附属及附帯設備ニ関スル計算書

四　附表

イ　地質ノ説明ニ必要ナル表
ロ　降水量表（第三條第四號ノ表ニ其ノ後ニ於ケル観測ノ結果ヲ補足スルコト）
ハ　最高低気温表
ニ　水位及流量表
ホ　掘鑿土石ノ数量表
ヘ　其ノ他参考トナルヘキ表

五　圖面

申請者名、題目、圖面番號（何枚ノ内第何號）及作成年月日ヲ記入シ圖面目錄ヲ添附スヘシ

イ　一般平面圖
　陸地測量部刊行五萬分ノ一ニ第三條第五號「イ」ノ各事項ノ外既設及新設量水標ノ位置ヲ記入スヘシ

ロ　貯水池實測圖
　平面圖、縦断面圖及横断面圖トシ縮尺及記載事項ハ第三條第五號「ロ」ニ同シ尚横断面圖ニハ地盤ノ地質ヲ明示シ縦断面圖及横断面圖ニハ實測年月日ヲ記入スヘシ
ハ　地質ノ説明ニ必要ナル圖面
ニ　堰堤設計圖
ホ　附属及附帯設備ノ設計圖
ヘ　堰堤ノ安定計算ニ関スル圖面
ト　水位流量曲線圖（第三條第五號「ニ」ノ圖面ニ其ノ後ニ於ケル観測ノ結果ヲ補足スルコト）
チ　流況曲線圖（第三條第五號「ホ」ノ圖面ニ其ノ後ニ於ケル観測ノ結果ヲ補足スルコト）
リ　流量累加曲線圖（第三條第五號「ヘ」ノ圖面ニ其ノ後ニ於ケル観測ノ結果ヲ補足スルコト）
ヌ　貯水位ト貯水量及貯水位ト貯水面積トノ関係ヲ示ス圖表
ノ　貯水池容量曲線圖

2　貯水面曲線圖

ル　堰堤築造箇所ヲ其ノ上流及下流ヨリ撮影シタル寫眞ニ堰堤外型ノ輪廓ヲ明ホシタルモノ

第五條　堰堤ノ新築又ハ改築ノ許可ノ申請ト同時ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルトキハ第三條ノ規定ニ依ル添附書類及圖面ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條　堰堤除却ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　實施計畫説明書（別記第三號樣式）

二　圖面

イ　堰堤並ニ附屬及附帶設備ノ構造圖（除却部分ヲ淡赤色ヲ以テ着色シ必要ナル寸法ヲ記入スルコト）

ロ　除却材料ノ處置ニ關スル設計圖

第七條　本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ提出スヘキ書類又ハ圖面中技術ニ關スルモノハ其ノ調査又ハ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名捺印スヘシ

第八條　許可ヲ受ケタル者ハ工事ノ施行又ハ監督ノ爲担任技術者ヲ置クヘシ

許可ヲ受ケタル者ハ工事着手前前項ノ技術者ノ經歷書ヲ添附シ地方長官ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官ハ担任技術者工事ノ施行又ハ監督ニ付適當ナラスト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第九條　許可ヲ受ケタル者工事ニ着手セントスルトキハ地方長官ニ届出ツヘシ

第十條　地方長官必要アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ヲシテ基礎地盤工事其ノ他工事ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ檢査員ヲ派遣シ工事ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　工事完了シタルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ添附シ其ノ認可ヲ申請スヘシ

一　出來形調書（別記第二號樣式ニ準シ作成スルコト）

二　計算書（第四條第三號各項目ニ付計算スルコト）

三　附表（第四條第四號「イ」乃至「ニ」及「ヘ」ノ表ニ準シ作成スルコト）

四　圖面（第四條第五號ノ圖面ニ準シ作成スルコト）

前項ノ認可申請アリタルトキハ地方長官ハ檢査員ヲ派遣シ檢査ヲ爲サシムヘシ

第十二條　前條ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ堰堤ヲ貯水又ハ取水ノ用ニ供スルコトヲ得ス

地方長官特別ノ事由アリト認ムルトキハ工事完了前ト雖モ期間ヲ定メ假ノ貯水又ハ取水ヲ認可スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　許可ヲ受ケタル者堰堤ヲ貯水又ハ取水ノ用ニ供セントスルトキハ堰堤操作ニ關スル規程ヲ設ケ地方長官ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十四條　地方長官必要アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ヲシテ堰堤ノ維持竝堰堤ノ爲担任技術者ヲ置カシムルコトヲ得

前項ノ担任技術者ニ付テハ第八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第十五條　許可ヲ受ケタル者ハ工事完了後毎年一回別記第四號様式ノ堰堤狀況報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ檢査員ヲ派遣シ堰堤ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　内務大臣必要アリト認ムルトキハ檢査員ヲ派遣シ堰堤又ハ其ノ工事ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條　檢査員、第十條第十一條第二項、第十二條第三項第十五條第二項又ハ前條ノ規

定ニ依リ檢査ヲ爲ストキハ別記第五號様式ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十八條　地方長官ハ別記第六號様式ノ堰堤臺帳ヲ調製スヘシ

第十九條　認可ヲ受ケスシテ堰堤ヲ貯水又ハ取水ノ用ニ供シタルモノハ三ケ月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ提出スル書類又ハ圖面ニ虚僞ノ記載ヲ爲シ又ハ届出若ハ報告ヲ怠リタル者

二　檢査員ノ檢査ヲ拒ミ又ハ妨ケタル者

第二十一條　代理人、使用人、其ノ他ノ從業者カ本人又ハ雇主ノ業務ニ關シ前二條ニ揭ク ル違反行爲ヲ爲シタルトキハ本人又ハ雇主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス處罰ヲ適用スヘキ者法人ナルトキハ其ノ代表者ニ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第二十二條　本令ハ昭和十年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　本令施行ノ際現ニ工事中ノ堰堤ニ付テハ許可ヲ受ケタル者ハ遅滞ナク第八條第二項ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十四條　本令施行ノ際現ニ貯水又ハ取水ノ用ニ供スル堰堤ニ付テハ許可ヲ受ケタル者ハ遅滞ナク第十三條第一項ノ届出ヲ爲スヘシ

●農地調整法（昭和十三年四月二日法律第六十七號）

第一條　本法ハ互讓相助ノ精神ニ則リ農地ノ所有者及耕作者ノ地位ノ安定及農業生産力ノ維持增進ヲ圖リ以テ農村ノ經濟更生及農村平和ノ保持ヲ期スル爲農地關係ノ調整ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　本法ニ於テ農地トハ耕作ヲ目的トスル土地ヲ謂フ

第三條　農地ノ所有者又ハ耕作者ハ兵役其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リテ農地ヲ自ラ耕作シ又ハ管理スルコト能ハサルトキハ市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體ニ農地ノ管理又ハ賃取ノ申出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申出アリタル場合ニ於テハ同項ノ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農地ノ管理又ハ賃取ヲ爲スコトヲ得

第四條　道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體カ農村ノ經濟更生ノ爲命令ノ定ムル所ニ依リ自作農創設維持ニ要スル土地ヲ取得シ又ハ使用スルノ必要アルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ土地ノ所有者其ノ他之ニ關シ權利ヲ有スル者ニ對シ土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ノ設定若ハ讓渡ニ關スル協議ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ團體カ未墾地ヲ開發シテ同項ノ事業ヲ行ハントスル場合ニ於テ同項ノ規定ニ依ル協議調ハサルトキハ開發セントスル未墾地其ノ他其ノ開發ニ必要ナル土地又ハ其ノ使用收益ノ權利ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第五條　行政官廳農村ノ經濟更生ノ爲必要アリト認ムルトキハ農地ノ所有者ヲシテ農地處分ニ當リ命令ノ定ムル所ニ依リ農地委員會ニ其ノ旨ヲ通知セシムルコトヲ得

第六條　命令ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ自作地ノ讓渡若ハ貸付ヲ爲シ又ハ之ニ付物權ヲ設定スルコトヲ得ス

第七條　前條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ニ付テハ其ノ旨ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ヲ爲スニ非サレハ前條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地タルコトヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依ル登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　農地ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキモ農地ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ農地ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ス

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ登記セサル賃貸借ノ目的タル農地カ賣買ノ目的物ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　農地ノ賃貸人ハ賃借人カ宥恕スヘキ事情ナキニ拘ラス小作料ヲ滯納スル等信義ニ反シタル行爲ナキ限リ賃貸借ノ解約ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒ムコトヲ得ス但シ土地使用ノ目的ノ變更又ハ賃貸人ノ自作ヲ相當トスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

當事者カ農地ノ賃貸借ノ期間ヲ定メタルトキハ當事者カ期間滿了前六月乃至一年內ニ相

手方ニ對シ更新拒絕ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非サレハ更新セサル旨ノ通知ヲ爲ササルトキハ從前ノ賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ賃貸人ノ疾病ニ因リテ自ラ耕作スルコト能ハサル爲其ノ他特別ノ事由ニ因リテ一時賃貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

農地ノ賃貸借ノ當事者賃貸借ノ解約ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒マントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ其ノ旨ヲ市町村農地委員會ニ通知スヘシ

第二項竝ニ民法第六百十七條及第六百十八條ノ規定ニ異ル小作條件ニシテ賃借人ニ不利ナルモノハ之ヲ定メサルモノト看做ス

第十條　小作關係ノ爭議ニ付公益上必要アリト認ムルトキハ小作官ハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

小作關係ノ爭議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ小作官ノ意見ヲ聽キ事件ヲ小作調停法ニ依ル調停ニ付スルコトヲ得リト認ムルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ小作官ノ意見ヲ聽キ調停前ノ措置トシテ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル裁判ハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲

ス

第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ違反シタル者ハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ五百圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十二條　小作調停法ニ依ル調停委員會ニ於テ調停成ラサル場合ニ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ小作官及調停委員ノ意見ヲ聽キ當事者雙方ノ利益ヲ衡平ニ考慮シ一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ小作關係ノ存續、小作條件ノ變更其ノ他爭議ノ解決上必要ナル裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ裁判ニ於テハ小作料ノ支拂、小作地ノ引渡其ノ他財産上ノ給付ヲ命スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效カヲ有ス

第一項ノ規定ニ依ル裁判確定シタルトキハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條　小作關係ノ爭議ヲ除クノ外相隣關係其ノ他農地ノ利用關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小作調停法及第十

條乃至前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　裁判所第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ小作關係ノ存續、小作條件ノ變更其ノ他爭議ノ解決上必要ナル裁判ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ市町村農地委員會又ハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第十五條　自作農創設維持、小作關係ノ調整、農地ノ交換分合其ノ他農地ニ關スル事項ヲ處理スル爲市町村ニ市町村農地委員會ヲ、道府縣ニ道府縣農地委員會ヲ置クコトヲ得

市町村農地委員會及道府縣農地委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　左ニ掲クル不動産ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

一　第三條又ハ第四條ノ團体カ第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ取得

二　第四條又ハ第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地ノ取得

三　第四條又ハ第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地ノ取得

第十七條　本法ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スルモノトス

附　則

第十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　命令ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ依リ本法施行前ニ創設又ハ維持セラレタル自作地ニ付テハ其ノ旨ノ登記ヲ爲スコトヲ得

第六條、第七條第二項及第三項竝ニ第十六條第二號及第三號ノ規定ハ前項ノ自作地ニ關シ之ヲ準用ス

第二十條　第八條及第九條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ存スル農地ノ賃貸借ニシテ本法施行後一年內ニ其ノ期間滿了スヘキモノニ付當事者カ其ノ期間滿了前一年內ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絶ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非サレハ更新セサル旨ノ通知ハ第九條第二項ノ期間內ニ爲ササルモノト雖モ之ヲ同條同項ノ期間內ニ爲シタルモノト看做ス

第二十一條　第十條第二項及第十一條乃至第十四條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ繫爲スル小作關係其ノ他農地ノ利用關係ニ關スル訴訟事件又ハ調停事件ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條　登錄稅法第十九條但書中「第八號、第九號」ヲ「第八號乃至第九號ノ四」ニ改ム

同法同條第八號中「自作農ノ創設維持又ハ」及「北海道府縣市町村、産業組合、産業組

合聯合會、」ヲ削リ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八ノ二　農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

同法同條第九號ヲ左ノ如ク改ム

九　農地調整法第三條若ハ第四條ノ團体又ハ第六條若ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者ニ對シ同法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ二　農地調整法第三條又ハ第四條ノ團体カ同法第三條又ハ第四條ノ事業ヲ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

九ノ三　農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者カ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ四　農地調整法第七條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル

同法同條第十二號ヲ左ノ如ク改ム

十二　農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル

場合ニ於ケル事業者ノ土地所有權ノ取得ノ登記

●農地調整法施行令（昭和十三年七月二十九日勅令第五百二十六號）

第一條　農地調整法第四條ノ事業ヲ行フ團体ハ道府縣及市町村ノ外産業組合及農事實行組合トス

第二條　農地調整法第四條ノ自作農創設維持ノ事業トハ同條ノ團体カ命令ノ定ムル所ニ依リ行フ左ノ事業ヲ謂フ

一　個人ノ自作地ト爲スヘキ土地ノ購入ニ必要ナル資金ヲ貸付ケ自作地ノ創設ヲ爲スコト

二　個人ノ自作地トシテ土地ヲ購入シタルニ因リ生シタル債務ノ借替ニ必要ナル資金ヲ貸付ケ自作地ノ維持ヲ爲スコト

三　個人ノ自作地ト爲ス爲ノ未墾地ノ購入若ハ開墾ニ必要ナル資金ヲ貸付ケ又ハ其ノ開墾ニ對シ助成ヲ爲シ自作地ノ創設ヲ爲スコト

四　自作地ト爲スヘキ土地ヲ購入シ、自作地ト爲ス爲未墾地ヲ購入シテ開墾シ又ハ自作地ト爲ス爲其ノ所有スル未墾地ヲ開發シ之ヲ資金ノ貸付又ハ代金割賦支拂ノ方法ニ依リ讓渡シ自作地ノ創設ヲ爲スコト

五　其ノ所有スル土地ヲ代金割賦支拂ノ方法ニ依リ讓渡シ自作地ノ創設ヲ爲スコト

第三條　農地調整法第六條ノ自作農創設維持ノ事業トハ道府縣、市町村、産業組合又ハ農事實行組合カ直接又ハ間接ニ政府ノ資金ノ融通又ハ補助若ハ助成ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ行フ前條第一號乃至第四號ノ事業及同法第四條第二項ノ規定ニ依リ土地又ハ其ノ使用收益ノ權利ヲ取得シテ行フ前條ノ事業ヲ謂フ

第四條　農地調整法第六條ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

一　自作地ノ創設又ハ維持セラレタル年ヨリ起算シ三十年ヲ經過シ且其ノ創設又ハ維持ノ爲生シタル事業者ニ對スル債務ノ辨濟ヲ完了シタル後ニ於テ其ノ自作地ノ讓渡若ハ貸付ヲ爲シ又ハ之ニ付物權ヲ設定スルトキ

二　自作地ノ創設又ハ維持ノ爲生シタル事業者ニ對スル債務ノ爲其ノ自作地ニ付抵當權ヲ設定スルトキ

三　自己若ハ家族ノ兵役又ハ徵用ニ因リ自ラ耕作スルコト能ハサル場合ニ於テ事業者ノ

承認ヲ得テ其ノ自作地ノ譲渡ヲ爲ストキ

四　自己若ハ家族ノ兵役、徴用若ハ疾病又ハ牛馬ノ徴発其ノ他特別ノ事由ニ因リ自ラ耕作スルコト能ハサル場合ニ於テ事業者ノ承認ヲ得テ其ノ自作地ヲ一時貸付クルトキ

第五條　市町村農地委員會ノ設置及廃止ハ地方長官市町村長ノ意見ヲ徴シ之ヲ定ム

第六條　市町村農地委員會ハ左ニ掲クル事項ヲ處理スルモノトス

一　農地調整法第三條ノ事業ニ関スル調査審議及斡旋

二　農地調整法第四條ノ事業ニ関スル調査審議及斡旋

三　農地調整法第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ関スル調査審議及斡旋

四　農地調整法第五條又ハ第九條第三項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル斡旋

五　小作関係、相隣関係其ノ他農地ノ利用関係ニ関スル斡旋及争議ノ防止

六　農地調整法第十四條ノ規定ニ依ル裁判所ニ対スル意見ノ申出

七　農地ノ交換分合ノ斡旋其ノ他農地事情ノ改善ニ関スル事項

八　前各號ニ掲クルモノノ外農地関係ノ調整ニ関シ地方長官ノ命スル事項

第七條　市町村農地委員會ハ當該市町村ノ區域内ニ存スル農地ニ関スル事項ヲ處理スルモノトス但シ耕作者又ハ農地ノ所有者ノ爲必要アル場合ニ於テハ他ノ市町村ノ區域内ニ存

スル農地ニ関スル事項ヲ處理スルコトヲ得

市町村農地委員會其ノ處理スヘキ事項カ二以上ノ市町村ニ関係ヲ有シ之ヲ處理スル困難又ハ不適當ト認ムルトキハ道府縣農地委員會ニ對シ當該事項ノ處理ヲ申出ツルコトヲ得

第八條　市町村農地委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第九條　市町村農地委員會ノ委員ハ八人以内トス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ其ノ定數ヲ増加スルコトヲ得

特別ノ事項ヲ處理スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第十條　市町村農地委員會ノ會長、委員及臨時委員ハ地方長官之ヲ選任シ又ハ解任ス

會長ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市町村長ヲ之ニ選任スルモノトス

第十一條　市町村農地委員會ノ會長、委員及臨時委員ハ名譽職トス

會長及委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アルトキハ任期中ト雖モ之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

補缺選任其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ委員ト選任ノ時ヲ異ニスル委員ノ任期ハ他ノ委員ノ殘任期間トス

會長ハ其ノ任期滿了シタルトキト雖モ後任ノ會長就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フ

第十二條　市町村農地委員會ノ會長、委員又ハ臨時委員ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十三條　市町村農地委員會ノ會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十四條　市町村農地委員會必要アリト認ムルトキハ重要ナル事項ヲ除クノ外會長ノ指名スル委員又ハ臨時委員ヲシテ其ノ事務ノ處理ヲ担任セシムルコトヲ得

第十五條　市町村農地委員會又ハ前條ノ規定ニ依リ事務ノ處理ヲ担任スル委員若ハ臨時委員ハ事務ノ處理ノ爲必要アリト認ムルトキハ期日及場所ヲ定メ當事者ヲ呼出シ又ハ利害關係人ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　前條ノ場合ニ於テハ當事者又ハ利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村農地委員會又ハ第十四條ノ規定ニ依リ事務ノ處理ヲ担任スル委員若ハ臨時委員ノ承認ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ補佐人ヲ同伴スルコトヲ得

市町村農地委員會又ハ第十四條ノ規定ニ依リ事務ノ處理ヲ担任スル委員若ハ臨時委員ハ

何時ニテモ前項ノ承認ヲ取消スコトヲ得

第十七條　市町村農地委員會ニ關スル費用ハ市町村ノ負担トス

第十八條　市町村農地委員會ノ事務ノ處理ニ關シ當事者ノ申出ニ因リ特別ノ行爲ヲ爲シタル爲要シタル費用ニ付市町村長ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ徵スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十九條　前條第一項ノ規定ニ依リ徵收シタル費用ハ市町村ノ收入トス

第二十條　北海道廳又ハ府縣ノ小作官又ハ自作農創設維持其ノ他農地ニ關スル事務ニ從事スル官吏若ハ待遇官吏ハ市町村農地委員會ノ會議ニ出席シ且意見ヲ述フルコトヲ得

第二十一條　道府縣ニ道府縣農地委員會ヲ置ク

第二十二條　道府縣農地委員會ハ左ニ揭クル事項ヲ處理スルモノトス

一　農地調整法第四條ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋

二　農地調整法第六條ノ自作農創設維持ノ事業ニ關スル調査審議及斡旋

三　小作關係其ノ他農地ノ利用關係ニ關スル斡旋及爭議ノ防止

四　農地調整法第十四條ノ規定ニ依ル裁判所ニ對スル意見ノ申出

五　第七條第二項ノ規定ニ依リ申出アリタル事項

六　前各號ニ掲クルモノノ外農地事情ノ改善ニ関スル事項及農地関係ノ調整ニ関シ農林大臣ノ命スル事項

第二十三條　道府縣農地委員會ニ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條　道府縣農地委員會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條　道府縣農地委員會ノ委員ハ十五人以内トス

特別ノ事項ヲ處理スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第二十六條　道府縣農地委員會ノ委員及臨時委員ハ農林大臣之ヲ選任シ又ハ解任ス

第二十七條　第十一條乃至第十六條ノ規定ハ道府縣農地委員會ニ之ヲ準用ス

第二十八條　道府縣農地委員會ニ関スル費用ハ道府縣ノ負担トス

第二十九條　道府縣農地委員會ノ事務ノ處理ニ関シ當事者ノ申出ニ因リ特別ノ行爲ヲ爲シタル爲要シタル費用ニ付地方長官ハ其ノ実費ヲ徴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第三十條　前條第一項ノ規定ニ依リ徴收シタル費用ハ道府縣ノ收入トス

第三十一條　市町村農地委員會ハ農林大臣及地方長官ノ監督ニ属ス

第三十二條　農林大臣又ハ地方長官ハ市町村農地委員會又ハ道府縣農地委員會ニ對シ監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　本令中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スルモノトス

附　則

第三十四條　本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條　農地調整法第十九條ノ自作農創設維持ノ事業トハ道府縣、市町村、産業組合又ハ農事実行組合カ自作農創設維持補助規則若ハ自作農創設維持補助助成規則ニ依ル補助若ハ助成ニ依リ又ハ其ノ補助若ハ助成ニ依ルモノト左ニ掲クル事項ニ付同一ノ條件ヲ以テ道府縣ノ施設ニ依リ行ヒタル自作農創設維持ノ事業ヲ謂フ

一　創設又ハ維持セラルル自作地ノ所有者、資格

二　創設又ハ維持セラルル土地ノ賃貸及總價額ノ制限

三　自作ヲ継續スヘキ年限

四　譲渡又ハ抵當權設定ノ制限

五　創設又ハ維持セラルル自作地ノ所有者カ前各號ノ事項ニ違反シタル場合ノ處置

第四條ノ規定ハ前項ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所